

2025年2月19日 さようなら原発第26回オンライン学習会

ロシアのウクライナ侵攻から3年

翻弄される小さき人々

チェルノブイリ原発事故から39年  
子ども基金の取り組み

小寺隆幸（チェルノブイリ子ども基金共同代表）

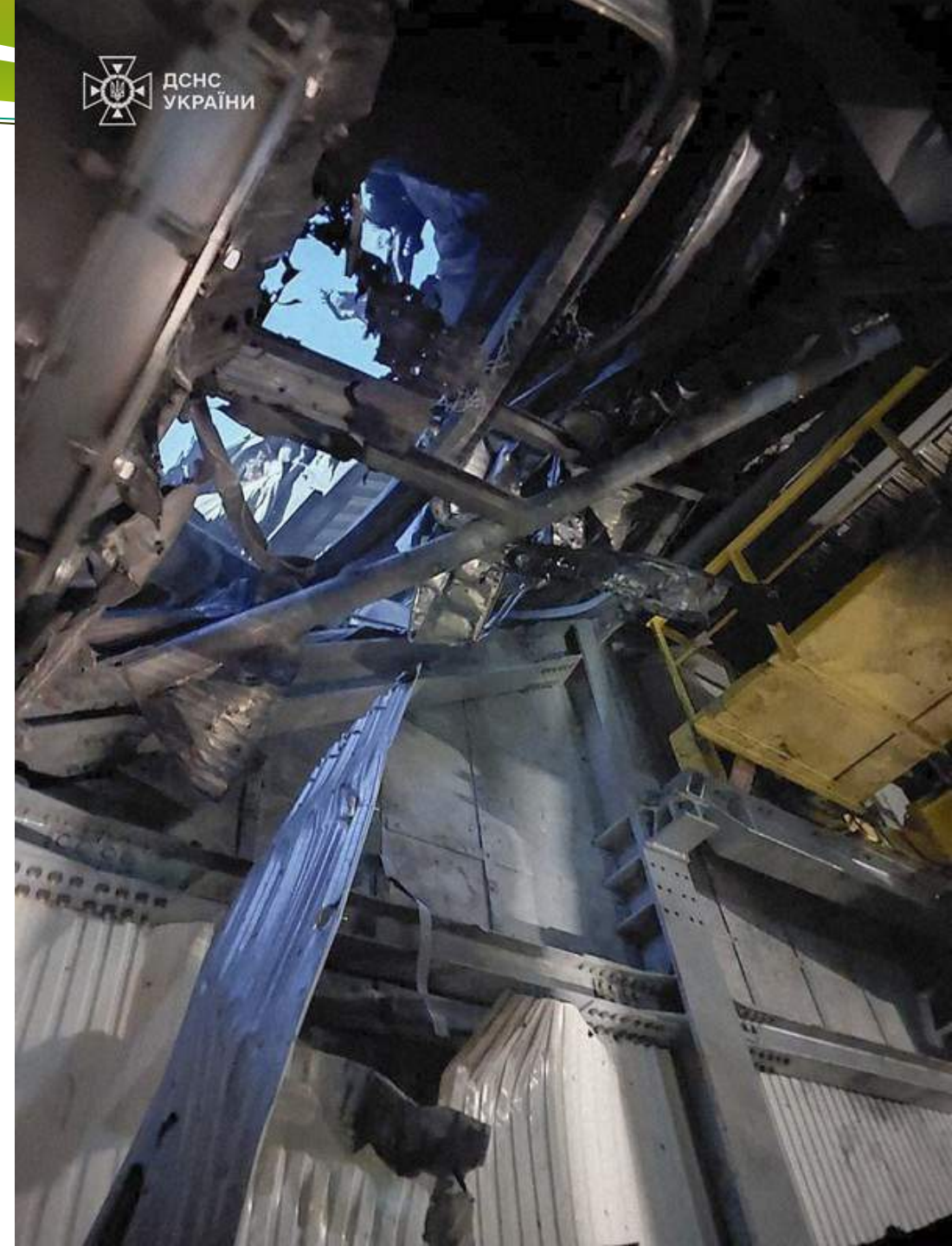
25.2.14ドローン攻撃で穴があいた第4号機シェルター

# ドローン攻撃で穴が開いたチェルノブイリ原発

## 4号炉のシェルター 2025年2月14日

IAEAによると、2025年2月14日午前1時50分ごろ、1986年に放射能漏れ事故を起こした4号機を覆うかまぼこ状の外部シェルターの天井部分に穴が開いた。外部シェルターは全長257メートル、高さ108メートルの構造物で、シェルター内には事故機をコンクリートで覆い、放射能漏れを防ぐ「石棺」と呼ばれる防護壁がある。防護壁の被害状況は不明。「現時点で放射線レベルは上昇しておらず、継続的に監視している」

ゼレンスキー氏は14日、シェルターの一部が焦げるなどした現場の動画とともに「これはテロリストによる世界全体への脅しだ。ロシアは毎晩このような攻撃を行っており、プーチン大統領が（和平）交渉の準備をしていないことを示している」とXに投稿した。一方、ロシアのペスコフ大統領報道官は14日、「ウクライナ政府による非難は挑発的だ」と述べ、露軍の関与を否定した。ペスコフ氏は「詳細な情報を入手していない」としたうえで、「ロシアは核施設を攻撃しない」と説明した。写真：ウクライナ非常事態省提供・AP



## 2022年2月チェルノブイリ原発をロシア軍が占拠

2月24日ロシア軍 ウクライナ軍事侵攻

すぐにチェルノブイリ原発を占拠。戦闘によりチェルノブイリ原発につながる高圧送電線が破壊

ウクライナ政府「もし占領者の砲撃が核廃棄物貯蔵施設を直撃した場合、**放射性物質がウクライナ、ベラルーシ、EU諸国を覆う可能性がある**」

3月9日ウクライナの国営企業エネルゴアトム「**電力遮断により20000個の後に使用済み核燃料の冷却ができず、放射性物質が漏れる可能性がある**。放射能雲が風によって流されてウクライナのその他の地域、ベラルーシ、ロシア、ヨーロッパに広がりかねない。」

3月31日、ロシア軍撤退。放射線量測定器など機器類を持ち去った。最も汚染度の高い場所で塹壕を掘っていたロシア兵が被ばくし、75人前後がベラルーシの病院で治療。兵士は原発の知識がなかった。

その後、欧州最大のザポロジエ原発をロシア軍が占拠。周辺で砲撃も。直撃すればチェルノブイリ事故の10倍規模の被害が欧州を襲いかねない。



39年経った今も爆撃されれば膨大な放射性物質をまき散らす。チェルノブイリは過去の問題ではない



# 米露による停戦交渉（大国の思惑をむき出しに）

米露外相会談(25. 2. 18サウジアラビア) 4項目合意

1 米ロ両国の在外公館の活動を正常化するために必要な措置をとり、両国関係を妨げる要因に対処する協議の仕組みを設置する。

2 ウクライナでの戦闘について、**持続可能で、すべての関係者が受け入れ可能な形でできるだけ早く終結させるための作業**の開始に向けて、高官級のチームを任命する。

3 ウクライナでの戦争を終わらせることでもたらされる**経済や投資の機会、さらに、地政学的な利害をめぐる将来の協力**に向けた基礎を築く

4 協議に参加したすべての関係者がこの過程が迅速かつ生産的に進むよう、引き続き関与していくことを約束する。

ゼレンスキー大統領「誰かが私たちの知らないところで何かを決めるようなことがあってはならない。ウクライナ抜きで、戦争を終結させる方法について決定を下すことはできない」

欧州首脳17日パリで緊急会議、（マクロン、スターマー英首相、ショルツ独首相、メローニ伊首相、ポーランドのトゥスク首相、スペインのサンチェス首相、ルッテNATO事務総長、フォンデアライエン欧州委員長、コスタEU大統領）。

EU当局者「われわれは『**力による平和**』というアプローチでトランプ大統領に同意する」

「和平協定を同時に締結せずに停戦で合意するのは危険だと考えている」。

**戦火の中で生きる人々、避難している人々、小さき人々のことはかえりみられない。**

# 「小さき人々」(アレクシエーヴィッチ)の視点

ベラルーシのノーベル賞作家『戦争は女の顔をしていない』第二次世界大戦に従軍した女性の声  
『ボタン穴から見た戦争』ドイツ軍侵攻時に子供だった人々の声『チェルノブイリの祈り』  
勇ましく戦おうという指導者の声ではなく、戦火の中の人々、子どもたちの思いを聴く。  
そこでまず、直接つながったチェルノブイリ被災者の今について

《徐京植さんとの対話から 2017年4月9日NHK「こころの時代」より》

ペレストロイカ直後は、すぐ自由が訪れると思っていました。みんな広場に出て「自由自由」と叫びました。でもその意味は誰も知りませんでした。自由について話し、夢みましたが、自由な人間はいませんでした。収容所の中にいた人間は、解放されても、翌日からすぐ自由になることはできないのです。そしてプーチンが出てきて「偉大なロシア。誇りと地位を取り戻し、立ち上がろう」と話し、人々の86%がプーチン支持となった。私はみんなに質問しました。「自由とは何ですか?」。「私たちの不自由は、私たちのこの苦しみは、なぜ自由に変えられないのか。なぜ新たな世代になったのに、またもや過去と同じ道を歩むのか。どうしてこの轍から抜け出すことができないのか」。

私は、**現在の世界のナショナリズム、偏狭な保守主義の台頭は、「小さき人々」がとてもおびえてしまっていることと結び付いている**と思います。「小さき人々」は、トランプやプーチンのように全ての問いに素早く答えてくれる人々を求めるのです。これが私たちがいる現実です。

# スラヴチチ市サビーナさんの訴え

## 2022年3月1日

日本の友人のみなさん、世界のみなさん、こんにちは！  
ロシア軍がウクライナのチェルノブイリ原発を陥落させました。これはIAEAの協定に逸脱し、核の安全性を脅かすものです。

戦争が止まるよう、ウクライナを助けてください！  
私の名前はSabinaといいます。チェルノブイリ原発事故の犠牲者で、子どもの頃から障害を抱えています。  
市民はロシアのウクライナ侵攻に苦しめられています。  
爆撃を避けてシェルターに隠れ、夜が明けるまで無事に過ごせるよう神に祈っています。

私は目下、戦闘のまっただ中にあります。 **たくさんの人**

**が死ぬのを目の当たりにしては、故郷の大地が犯されるのを見ては、こころ打ちのめされ、私自身も殺されていきます。** また別の日には、ベラルーシ方面から軍用機が飛んでくる音を聞きました。怖くて、朝起きることができません。

みなさん、どうか私たちを支えてくださるようお願いいたします。ウクライナは支援を求めているということを伝えてください。この21世紀、プーチンとの闘いを終わらせなければいけません！  
どうかみなさん連帯を！ Спасибо! (ありがとう) **彼女は2月に数度目の手術をしたばかりでした。**



## サビーナさんはその後スペインで暮らしています

スラブチチからの避難は、私たちのグループ（友人、その家族、子ども合計10人）みんなで考え、計画しました。ある時、サイレンが激しく鳴り出し、それで私たちはもう耐えられないと感じ、避難を決めました。

（ポーランド、ドイツ、フランスを経てスペインへ）

私たちはアパートを借りることができました。金銭的に支援してくれる方はいません。みんなで助け合いながら暮らしています。

もちろん、私はスラブチチの町と母がとても恋しいです。母に会いたいです。しかし、そこが安全になるまでには長い時間がかかるでしょう。

私はウクライナが大好きです。とても自然の美しい国です。私たちは自由な国に住ん

でいましたが、「ロシアの世界」がすべてを奪いました。私は以前、フリーランスでウェブデザイナーの仕事をしていました。戦争は私の人生を変えました。これから先、自分がどうしていくのかということについて、今の時点で言うことは難しいです。でも今のところ、私はここにいるつもりです。ここは安全です。いろいろな道が開かれています。いつか母にもここに来てほしいと思っています。（2022年4月15日）

私たちは難民認定を受けることができました。ウクライナで体験した酷い出来事によるショックから、私は少しずつ回復し始めています。私はすでにフリーランスの仕事を再開しました！（4月29日）





# 甲状腺手術後の子どもの保養プロジェクトに参加したオクサーナさん（1987年生まれ）

今私は、母、姉、甥、犬と一緒にチェコのプラハにいます。父と他の親類はウクライナに残っています。（写真 プラハで避難した子どもたちと）

私はキエフ近郊、ブーチャのすぐ近くに住んでいました。**2/24の朝から爆撃が始まりました。その後3日間は留まっていたが、地獄のようでした。前日の2/23、子どもたちはみな学校に行き授業を受けていたのです。**

私たちは誰も、こんな戦争が起きるなどとは思いませんでした。私たちはプラハに親類も知人もいませんが、ここでは避難民に対して、とてもよくしてくれています。たくさんの人たちに助けられ、それらの人々と親しくなりました。

ただ、あまりに多くの人がウクライナから避難してきているため、ここには仕事がありません。でも私たちはがっかりなどしていません。お互いに助け合っています。また私はボランティアとしてウクライナから避難してきた子どもたちの世話をしています。

この先、イギリスに行くことを考えています。そこは避難民がそれほど多くないので、仕事をみつけることができるかもしれません。

オチャコフの「ユージャンカ」での保養がとても懐かしいです。特に、2000年に日本からあなたやほかのボランティアの人たちが来た時のことが、とても印象に残っています。

（子ども基金が作ったオデッサのそばの保養所。小寺も保養に参加した）





# チェルノブイリ子ども基金はウクライナ・ナロジチ村のワレーリヤさんら5人の子どもと、オヴルチの一人の青年に、緊急支援金を送りました。

ナロジチはチェルノブイリ事故で高濃度に汚染された村の一つです。そこに住むワレーリヤさんも放射線の影響と考えられる脳腫瘍を発症、子ども基金はこれまで継続して支援してきました。この家族は、高齢のワレーリヤの祖母がいるため、どこに避難できません。3月23日には「戦闘が近くで行われていて恐ろしい」というメールが来ました。その後、3月31日におばあさんが亡くなったそうです。

2022年4月8日、支援金を受け取ったという連絡が届きました。

「支援金を受け取りました。本当にありがとうございます。私たちは、ナロジチの町から少し離れた村にいます。祖母が住んでいた家にいます。状況は少し良くなっていると思います。病院も、お店も開いています。必要なものを買うことができます。食べるものは、自分たちの畑がありますので。ご支援をありがとうございます。ワレーリヤの母より」

[チェルノブイリ子ども基金事務局ブログ4月11日より（HPに掲載しています）](#)

私たちの取り組みはこの3年、一人ひとりの小さき人々によりそい、とぎれることなく続いてきました。そこで改めてチェルノブイリ原発事故のことを思い起こしてみましよう。



# 第二石棺ができる前の原発

## 4号炉 第一石棺

保守点検のため前日より原子炉停止作業中であった4号炉（出力100万kW、1983年12月運転開始）で、1986年4月26日午前1時23分、急激な出力上昇をもたらす暴走事故が発生し爆発に至った。原子炉とその建屋は一瞬で破壊、爆発と火災により大量の放射能放出が継続した。

# 破壊された4号炉の模型



ソ連のRBMK型、  
原爆用プルトニウム製造のために開発された原子炉。  
黒鉛減速・軽水沸騰冷却・チャンネル管型原子炉

2017 9 11



# 炉の構造と事故原因

今中哲二編 『チェルノブイリ原発事故の実相解明への多角的アプローチ』京都大学原子炉より

[https://www.rri.kyoto-u.ac.jp/PUB/report/04\\_kr/img/ekr012.pdf](https://www.rri.kyoto-u.ac.jp/PUB/report/04_kr/img/ekr012.pdf)

中性子を減速させるために黒鉛ブロックを円筒状に積み（直径12m高さ7m）約1700本の垂直貫通孔に燃料集合体を含む圧力チャンネル管（外径8.8cm）を差し込み、管の中で冷却水を沸騰させる。

利点：運転中に燃料交換が可能、大出力化が容易、大重量機器が不要で内陸立地が容易。（水を減速材とする軽水炉。格納容器の中に入れるので、上記の3点は逆に困難）

欠点：多数のチャンネル管のため制御が複雑、炉心でのボイド反応度係数が正になる（気泡が増えると出力が上昇する側に作用する）ためチャンネル管破損事故から暴走する可能性  
チェルノブイリ事故制御棒の一斉挿入が、出力上昇をもたらさずという制御棒の設計欠陥判明

1986年8月ソ連政府報告：原因は運転員による規則違反

1991年1月ソ連原子力産業安全監視委員会報告：

事故原因は原子炉の欠陥、およびその対策をとらなかった当局にある

# 3号炉の制御室 4号炉と同型

小寺撮影

が停止する機会に合わせて、非常用電源のテストが行われた。

1時23分40秒、原子炉を止めようと制御棒を一斉に挿入する緊急停止ボタンを押した

の一斉挿入によりポジティブスクラムが発生し、炉心下部での出力が急上昇し、一部の燃料棒さら  
カチャンネル管が破壊され、大量の蒸気が発生。炉心での蒸気発生はさらに出力暴走をもたらし、  
とその建屋が爆発炎上した。ボタンを押してから7秒後だった。

2017 9 11





# Tschernobyl

Am 26. April 1986 um 1.23 Uhr Ortszeit ereignete sich bei der sowjetischen Ortschaft Tschernobyl die bislang größte Katastrophe in der Geschichte der friedlichen Nutzung der Kernenergie. Der vierte Block des dortigen Kernkraftwerks geriet außer Kontrolle. Zwei Explosionen zerstörten das Reaktorgebäude weitgehend. Dies und der anschließende Brand des Graphits im Reaktorkern führten zur Freisetzung radioaktiven Materials, das als radioaktive Wolke weit über die Grenzen der Sowjetunion hinausdriftete.



燃え続ける原子炉を封じ込め火災を消火するため、4月末から5月始めに砂、鉛、ホウ素など5000トン以上がヘリコプターから炉心めがけて投下。5月6日大量の放射能放出が終わった。



# 原発そばの消防署の慰霊碑

この消防士らが事故後駆け付け、被曝し殉職した。

大量の放射線被曝による急性障害が200名あまりの原発職員と消防士に現れ、31人が死亡

(爆発時に行方不明になった1人、事故当日火傷で亡くなった1人、被曝以外の死因1人を含む)。

## 現場に真っ先に駆け付けた消防士の妻リュドミラ・イグナチェンコの言葉より

その夜夫は原発へ 朝、病院にいると知らされた そしてモスクワへ運ばれた。病院でつきそう。夫は変わり始めた。粘膜が層になって剥がれ落ちる。「僕に抱きついちゃいけない」でも手を握る。生まれてくる子供の名前を考える。…亡くなった。

国家非常事態員会「遺体はお渡しできない。放射能が強いので特殊な方法で埋葬される。あなたのご主人は英雄で、もう家族のものではない。国家のものです。」  
墓地で陣痛が始まった。  
女の子でした。4時間後亡くなった。娘も放射能で汚染されていて渡せないと言われた。

アレクシェービッチ

「チェルノブイリの祈り」







## 石棺建設

崩壊した原子炉と建屋を丸ごとコンクリートで囲い込む「石棺」の建設が6月に始まり11月完成。火災鎮圧、汚染除去、石棺建設に軍隊など80万人をソ連各地から動員。特にバルト3国から多い。

## 次の写真 放射性物質の片付け

非常に危険なので、はじめはロボットを使ったが放射線のためこわれ、人間がかたづけた。この仕事をしたのは若い兵士や労働者で事故処理者、ロシア語でリクビダートルと呼ばれている。彼等は強い放射線をあび、多くはがんや心臓病で亡くなった。



# 福島第一原発 2011.3



<http://www.ElenaFilatova.com> ♪



2016年建設中の第二石棺  
横にアーチ形のドームを造り、  
完成後レール上を移動させた







第二石棺で覆われたチェルノブイリ原発4号炉  
右は4号炉と同型の3号炉

2017 9 11



## 4号機を覆う鋼鉄製の新シェルター 2016年11月29日設置



4号機を囲っていたコンクリート製の第1石棺をアーチ形の鋼鉄シェルターですっぽり覆うことで、放射性物質の漏出を防ぐ。幅257m、高さ108m、重さ3万6000トン。地上建造物としては世界最大規模。耐用年数100年。総工費15億ユーロ（約1800億円）。欧州復興開発銀行、欧州連合の各国、日本、米国、ロシアなど40カ国以上が負担。2023年までにコンクリート製石棺を取り外し、溶解した核燃料の除去を進める予定だったが不可能。100年ごとに作り直す??

# 事故の概要と原因

原子炉を停止し機器の作動テストを実施。26日午前1時 急激な出力上昇・暴走・爆発

**炉の構造と事故原因** 「チェルノブイリ原発事故の実相解明への多角的アプローチ」 今中哲二編 京都大学原子炉  
ソ連独自の黒鉛減速・軽水沸騰冷却・チャンネル管型原子炉 原爆用プルトニウム製造の  
ために開発された原子炉。中性子を減速させるために黒鉛ブロックを円筒状に積む（直径  
12m高さ7m）1700本の垂直貫通孔に燃料集合体を含むチャンネル管を差し込み、管の  
中で冷却水が沸騰。

利点：**運転中に燃料交換が可能、大出力化が容易、大重量機器が不要**で内陸立地が容易。

（水を減速材とする軽水炉は格納容器の中に入れるので、上記の3点は逆に困難）

欠点：多数のチャンネル管のため**制御が複雑**、気泡が増えると出力が上昇する側に作用する  
ため、チャンネル管破損事故から暴走に至る可能性がある。

チェルノブイリ事故で**制御棒の一斉挿入が出力上昇をもたらす**という制御棒の設計欠陥が  
判明。

1986年8月ソ連政府報告：原因は運転員による規則違反

1991年1月ソ連委員会報告：事故原因は**原子炉の欠陥とその対策をとらなかった当局**に。





## プリピャチ市

### プリピャチ

チェルノブイリで働く人々の町、人口5万人。事故の翌日も市民は何も知らされず、普通に暮らし大量の放射線を浴びた。4月27日午前は2~6mSv/hだった。

(福島でも原発付近の町で1 mSvの線量計が振り切れた) その翌日、3日だけ避難と告げられバス1000台でキエフの団地に移った。福島とは異なりプリピャチ市民はキエフの新しい団地にそっくり移住したことでコミュニティはある程度保たれ、子どもたちも同じクラス、同じ先生で学ぶことができた。

### キエフ (キーウ)

原発から100km圏外、人口250万。5月1日メーデーで、何も知らされずに30 $\mu$ Sv/hの放射線量の中で行進。その後うわさが広がりパニックが起き始めた。

5月7日、ソ連政府は「キエフ市の放射能状況は子どもを含めた住民の健康に危険をもたらすものではない」と言明、住民の抗議と女性の市幹部会議長の涙ながらの訴えで、ソ連政府はキエフの子どもたちの避難を決定。

5月14日全ての学校閉鎖、翌日から乳幼児は母子一緒に、小学校から15歳までの子どもたちは親元を離れ、総数100万人が遠くのサマーキャンプやサナトリウム、ホテルへ9月はじめまでの3ヶ月半避難。キエフの子どもたちは大量の被曝を免れた。

## 30km圏内の保育園 当時の様子そのままに

圏住民は1週間放置され、やっと5月3日から強制避難がはじまり、1週間かけて1000人が避難した。何十万という家畜が住民と一緒に避難した。事故から約2週間、原発周辺30km圏のウクライナ領から約9万1000人ベラルーシ領から2万



森には放射能で汚染されているという看板が立てられ、  
今も立ち入ることはできない。





# チェルノブイリ：文明への警告

ユーリ・シチェルバク（1991年ウクライナ環境大臣）

今中哲二編「チェルノブイリ原発事故の実相解明への多角的アプローチ」所収

想像力の不足、テクノクラートの哲学である底の浅い合理主義、自分たちの発明を社会に押しつけたひとにぎりの学者と技術者の独占体制、客観的な監査の欠如、その他もろもろの原因が、この事態を引き起こした。

チェルノブイリの教訓の一つは、電力、原子力、生物学、化学、情報などの巨大な技術システムが、文明に対してますます大きな脅威となり、人間にコントロールできなくなってしまう可能性も増し続けている。

チェルノブイリは人類のとどまることのない発展に対する挑戦であり、未来から私たちに向かって送られてきた警告である。

技術文明の発展が袋小路に向かっているという問題が鋭く提示された。

この事故の特徴は、何百万という数の住民、なかでも子どもたちがその影響を受けたこと、長期にわたって土壌・水・大気が放射性物質により汚染されたこと、そして自然環境と生態系の不可逆的な変化である。

チェルノブイリ——それは、決して忘れられてはならない、人類への永遠の教訓である。

# チェルノブイリと福島事故で放出された放射性物質

(読売新聞2021.3.4より)

## 事故で放出された主な放射性物質

核種	半減期	福島第一原発	(千ベクレル)	チェルノブイリ原発
キセノン133	5.2日		7320	6500
テルル132	3.2日	28.5		約1150
ヨウ素131	8日	100~500		約1760
ヨウ素133	20.8時間	9.56		910
セシウム134	2.1年	6~20		約47
セシウム136	13.1日	1.77		36
セシウム137	30年	6~20		約85

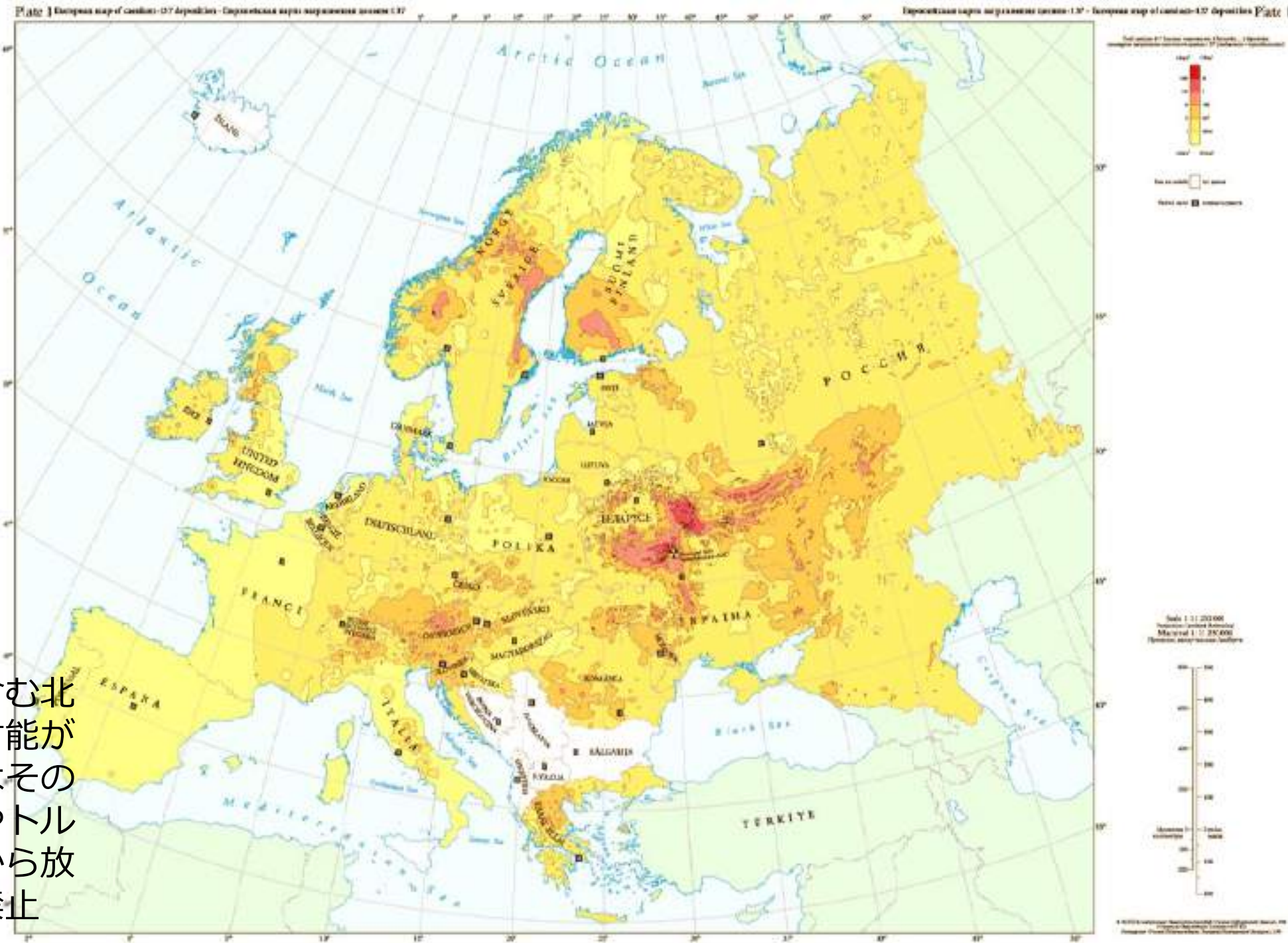
※原子放射線の影響に関する国連科学委員会資料を基に作成

# ヨーロッパの汚染状況

トルコもかなり汚染されたが示されていない

北欧では苔に大量の放射性物質が集積され、それを食べるトナカイが被曝、多くのトナカイが殺処分された。ドイツやオーストリアも高汚染され、牛乳は廃棄。

5月上旬には日本も含む北半球のほぼ全域で放射能が観測された。日本ではその年、イタリアパスタやトルコ産ヘーゼルナッツから放射能が検出され輸入禁止





# 原発600キロ圏のセシウム137汚染

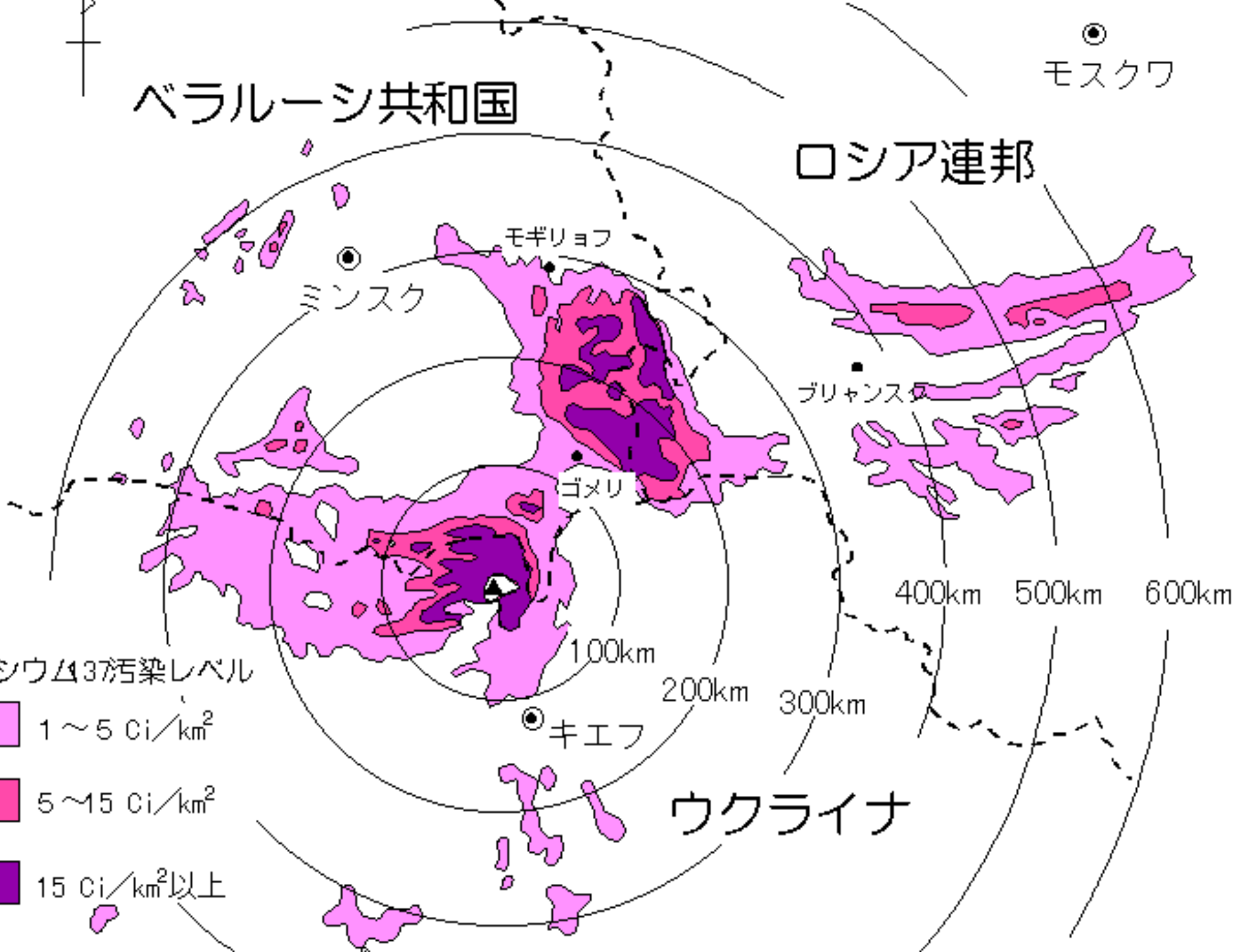
定期的管理ゾーン  
 3.7-18.5万Bq/m<sup>2</sup>  
 (1mSv以下)

移住権利ゾーン  
 18.5-55.5万Bq/m<sup>2</sup>  
 (1mSv以上)

移住義務ゾーン  
 (55.5-148-以上)  
 (5mSv以上)

148以上第一次移住

55.5以上第二次移住



# セシウム137土壌濃度 2011年8月29日文科省公表

最高 大熊町1545万Bq/m<sup>2</sup> 約400Ci/km<sup>2</sup>

赤色地域3000K (3000キロ) 以上  
= 300万Bq/m<sup>2</sup>以上

30年後150万Bq/m<sup>2</sup>以上、  
60年後75万Bq/m<sup>2</sup>以上

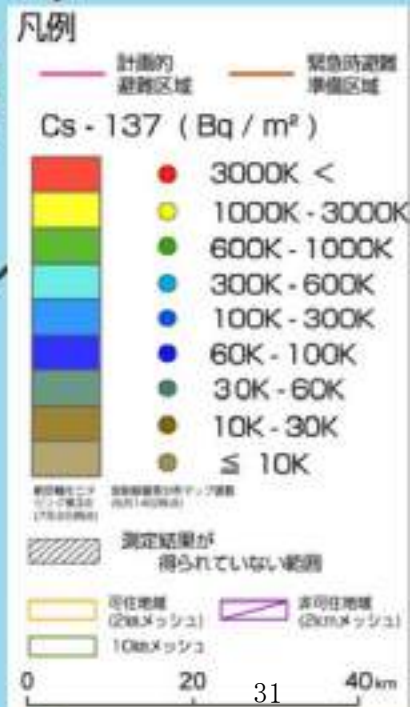
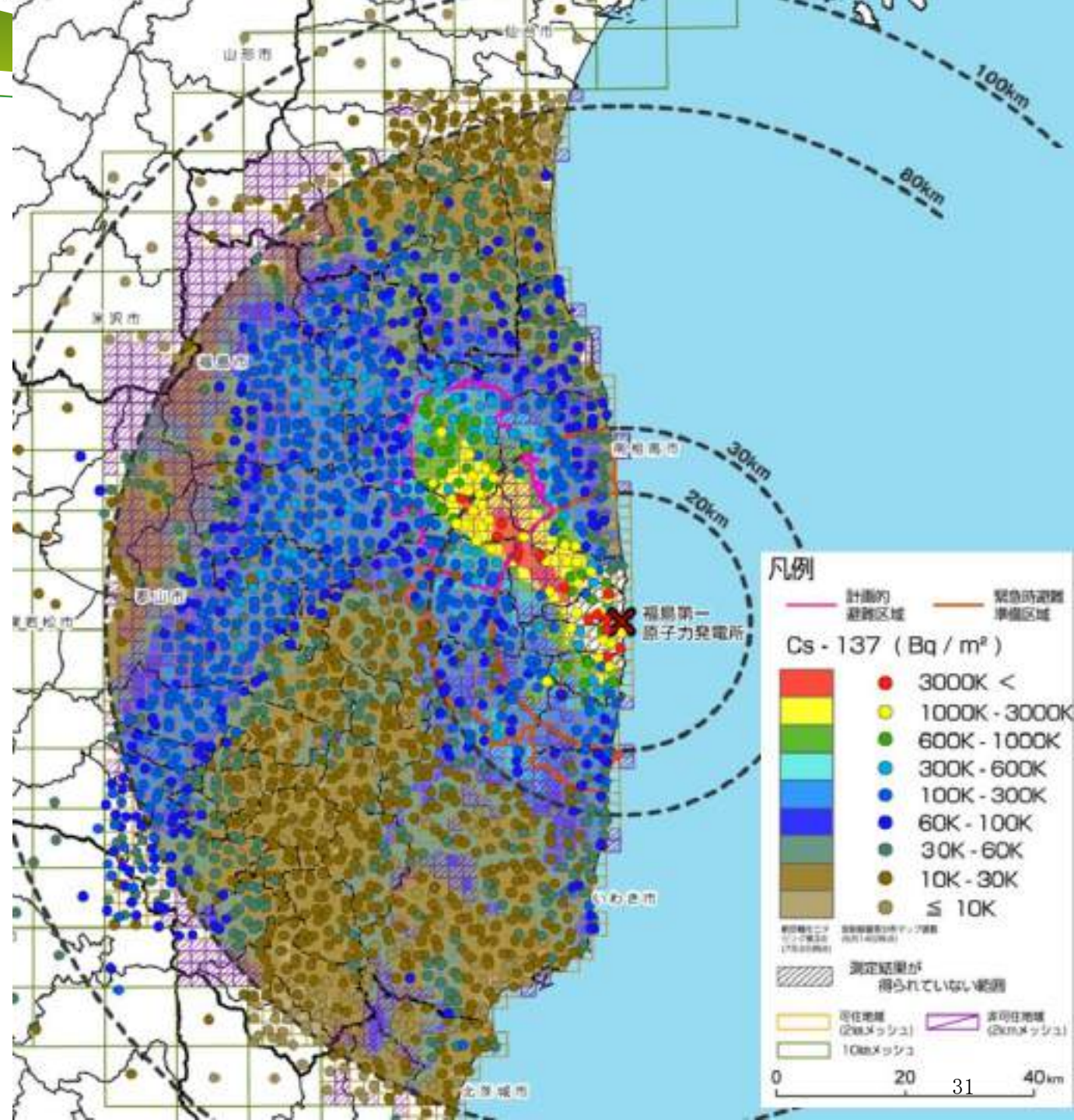
60年経ってもチェルノブイリの移住義務  
ゾーン55万Bq/m<sup>2</sup>を超えている。

黄色地域1000K-3000K (100万-300万)  
当時かなりの地域がチェルノブイリの第  
一次移住義務ゾーン148万Bq/m<sup>2</sup>を超えた

緑色地域600K-1000K (60万-100万)  
当時チェルノブイリの第二次移住義務  
ゾーン55万Bq/m<sup>2</sup> (約5mSv/年以上)  
を超えている。

水色地域100K-600K (10万-60万)  
当時チェルノブイリの移住権利ゾーン  
(約18万-60万) とほぼ同レベル

青色地域60K-100K (6万-10万)  
当時チェルノブイリの定期管理ゾーン  
(約4万-18万) とほぼ同レベル





# (2) 小学校校庭の土壤汚染 ～日本原子力研究開発機構～

山木屋小学校の  
校庭のCS<sub>13</sub>は  
105万Bq  
I<sub>131</sub> 195万Bq

3 1 1 子ども甲状腺がん  
損害賠償請求訴訟 第  
1 回口頭弁論期日  
訴状概要説明より

2022年5月26日  
弁護士 井戸謙一

福島県の小学校校庭のヨウ素131およびセシウム134、セシウム137の土壤汚染濃度  
土壤採取日 2011年4月5日または6日

施設 番号	地点名	名称等	土壤汚染濃度						沈着核種による 外部被ばく mSv		再浮遊核種 による内部 被ばく	合計 (2) mSv
			土壤汚染 [ベクレル/kg]			土地汚染 (1) [ベクレル/m <sup>2</sup> ]			屋外	遮蔽有		
			I-131	Cs134	Cs-137	I-131	Cs-134	Cs-137				
1	県北1	福島市立第一小学校	8,190	2,950	3,600	533,000	192,000	234,000	9.30	0.25	0.62	6.20
2	県北2	福島市立大久保小学校	5,950	3,520	4,100	386,000	229,000	267,000	10.80	6.50	0.53	7.03
3	県北3	二本松市立島下小学校	6,220	5,300	6,730	404,000	345,000	437,000	16.70	10.00	0.66	10.7
4	県北4	伊達市立保原小学校	5,650	3,890	4,390	367,000	253,000	285,000	11.83	7.10	0.53	7.63
5	県北5	川俣町立山木屋小学校	29,900	13,000	16,100	1,950,000	845,000	1,050,000	41.00	24.60	2.40	27.0
6	県中1	郡山市立金邊小学校	3,100	2,650	3,110	201,000	172,000	202,000	8.13	4.88	0.32	5.20
7	県中2	郡山市立熱海小学校	1,700	1,200	1,490	111,000	78,100	96,600	3.76	2.26	0.16	2.42
8	県中3	須賀川市立第二小学校	1,240	2,290	2,750	80,300	149,000	178,000	7.04	4.23	0.20	4.43
9	県中4	田村市立船引小学校	1,570	777	898	102,000	50,500	58,400	2.39	1.43	0.13	1.56
10	県中5	平田村立蓬田小学校	597	741	947	38,800	48,200	61,600	2.34	1.40	0.08	1.48
11	県南	白河市立白河第一小学校	717	358	401	46,600	23,300	26,100	1.09	0.65	0.06	0.71
12	会津1	会津若松市立鶴城小学校	497	445	535	32,300	28,900	34,800	1.38	0.83	0.05	0.88
13	会津2	喜多方市立第一小学校	259	264	351	16,800	17,200	22,800	0.85	0.51	0.03	0.54
14	南会津	南会津町立田島小学校	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd
15	相双1	南相馬市立原町第一小学校	2,820	2,050	2,260	183,000	134,000	147,000	6.18	3.71	0.27	3.98
16	相双2	相馬市立中村第一小学校	1,590	1,270	1,260	103,000	82,800	81,800	3.70	2.22	0.16	2.38
17	相双3	浪江町立津島小学校	20,400	8,510	10,000	1,330,000	553,000	653,000	26.40	15.90	1.60	17.5
18	いわき1	いわき市立平第一小学校	4,850	451	462	315,000	29,300	30,000	1.43	0.86	0.28	1.14
19	いわき2	いわき市立勿来第一小学校	1,260	272	287	81,600	17,700	18,700	0.83	0.50	0.08	0.58
20	いわき3	いわき市立西倉小学校	6,180	637	770	402,000	41,400	50,100	2.11	1.27	0.37	1.63

ヨウ素131 185万～555万ベクレル/m<sup>2</sup>  
37万～185万ベクレル/m<sup>2</sup>  
18.5万～37万ベクレル/m<sup>2</sup>

【出典】福島県小学校等に関する線量評価 日本原子力研究機構 安全研究センター 2011年4月14日



## キエフ（キーウ）放射能医学研究所で

キエフは原発から100km圏外、人口250万。5月1日はメーデーで、何も知らされずに $30\mu\text{Sv}/\text{h}$ の放射線量の中でパレードが行われた。その後うわさが広がりパニックが起き始めた。

5月7日、ソ連政府は「キエフ市の放射能状況は子どもを含めた住民の健康に危険をもたらすものではない」と言明したが、住民の抗議と女性の市幹部会議長の涙ながらの訴えで、ソ連政府はキエフの子どもたち3333の避難を決定。5月14日全ての学校は閉鎖され、翌日から乳幼児は母子一緒に、小学校から15歳までの子どもたちは親元を離れ、総数100万人が汚染されていない遠くのサナトリウム、ホテルへ9月はじめまでの3ヶ月半避難し、子どもたちは大量被曝を免れた。

## チェルノブイリ事故汚染面積 (km<sup>2</sup>)

国名 (データ集計時)	セシウム137の汚染レベル (キュリー/平方km)				
	1 - 5	5 - 15	15 - 40	40以上	1以上計
ロシア(1991.1.1)	188.3	34.7	9.3	-	232.3
ベラルーシ (1995)	148.5	31.4	4.1	0.0283	184.0
ウクライナ(1995.1.1)	173.2	65.3	1.9	-	240.4
合計	510.0	131.4	15.3	0.0283	656.7

40Ci/km<sup>2</sup> 以上 : 強制避難 148万Bq/m<sup>2</sup> 以上

15~40Ci/km<sup>2</sup> : 強制移住 55万5千Bq/m<sup>2</sup> (積算線量年5mSv以上)

5~15Ci/km<sup>2</sup> : 希望者移住 18万5千~55万5千Bq/m<sup>2</sup> (年1~5mSv)

1~5Ci /km<sup>2</sup> : 厳しい放射線管理が必要な汚染地域 3万7千Bq/m<sup>2</sup> 以上

註 キュリーCi ラジウム226 1g相当の放射能。毎秒370億の放射性崩壊

ベクレルBqは放射能の単位で、放射線を出す側に着目。土や食品、水道水等に含まれる放射性物質の量を表すときに使われ、数値が大きいほどたくさんの放射線が出ている。

シーベルトは人が受ける被ばく線量の単位で意味が異なる

# チェルノブイリ事故の被災者推定

チェルノブイリ原子力発電所4号機事故での放射線による死亡者数  
WHOが採用している国際がん研究機関（IARC）のCardisらによる推定  
事故直後から1987年にかけての緊急の事故処理に当たった作業員、  
チェルノブイリ原子力発電所から30km圏内に居住し事故後避難した避難民、  
および避難はしなかったが旧ソ連（ベラルーシ、ウクライナ、ロシア）の高度汚染地  
域に居住していた人の計約60万人を対象とすると、

事故により増加するがん死亡は約4000人

旧ソ連の（高度汚染地域を除いた）汚染地域の居住者を含めて約740万人を対象とすると、  
合計で約9000人

さらに推定対象をヨーロッパ全体5.7億人に広げると、

過剰死亡の数は約16000人

わずかな放射性物質を取り込んだ場合も、放射線がDNAを切断し、癌になり死ぬ可能性  
はある。チェルノブイリ事故により癌死する人が9000名いるとWHOは推定するが、癌  
死した一人ひとりにとっては、チェルノブイリの影響か他の影響かわからない。しかし  
**わからないことは、被害者がいないことではない。**



# チェルノブイリ事故の被害とは何か？

低線量被曝が健康に及ぼす影響は**がんだけではない**。

被曝し続けることによる免疫力低下、その結果起こる様々な病気  
遺伝的疾患の可能性（今後長期的にわたる調査が求められる）

特に**子どもの被害が大きい**。

100万人が10 mSv被曝することで新たに増えるガン死者数の推定（ゴフマン「人間と放射線」明石書店）

被曝年齢	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55
ガン死者	15170	13344	10521	5109	4511	4470	3892	2780	1716	760	71	49

根本的な問題は、原発事故により、地域社会が消滅すること。それ以前の生活・仕事が奪われること。それによる**精神的なダメージ、希望の喪失**も大きい。

政府やIAEA国際原子力機関などは、被害をできるだけ小さくみせかけようとする。

そして健康被害の解明は非常に難しい。ウクライナやベラルーシの医師たちが異常を訴えても、原発事故の影響か否かわからない、「科学的に確かでない」と切り捨てられる

**「科学的方法」で解明できることは、事故被害のほんの一側面でしかない。（今中哲二）**

**「チェルノブイリの災害は数万人の死者に対して責任関係があつたはずだ。いかなる「科学的」真実も、この単純な「人間的」真実にとってかわることはできない。」（デュピュイ「チェルノブイリある科学哲学者の怒り」明石書店.p.90）**

# 調査報告 『チェルノブイリ被害の全貌』より

ヤブロコフ、ネステレンコ他.岩波書店.2013

\*放射能汚染は欧州の40%、アジア（トルコ、グルジア、UAE, 中国）、アフリカ北部、北米に広がった。86年4月から7月にかけて4000Bq/m<sup>2</sup>以上に汚染された地域に4億人が住んでいた。

\*排出放射能総量I<sub>131</sub>（半減期8日）120～170京Bq、CS<sub>137</sub>（30年）4京Bqを含む**1200京Bq**（UNSCEAR2000）多量に放出されたものはI<sub>133</sub>（20時間）キセノンXe<sub>133</sub>（5日）テルルTe<sub>132</sub>（3日）ネプチウムNp<sub>239</sub>（2日）（p. 17）

\*燃料の30%（50トン）が放出されたと仮定しても200kgのプルトニウムが飛散（p. 16）

\*半減期の短い核種が多種多様な食物を汚染した。このうちいくつかの核種は、1987年になってもなおセシウム137やストロンチウム90による汚染を上回っていた。セシウム137の線量に基づいて被ばく線量を算出することは、実際の累積実効線量を過小評価する。また内部被曝線量は牛乳・ジャガイモに取り込まれた放射能にもとづいて規定されたが、ポレーシエ地帯では食物のかなりの割合をきのこ類など林産物が占めるが、その放射能は考慮されなかった。

\*子どもの罹病率が高まり、キエフでは以前は90%の子が健康とみなされていたが今は20%である。ポレーシエのいくつかの地域では健康な子は存在しない。（p. viii）

# 子どもたちを襲った小児甲状腺ガン

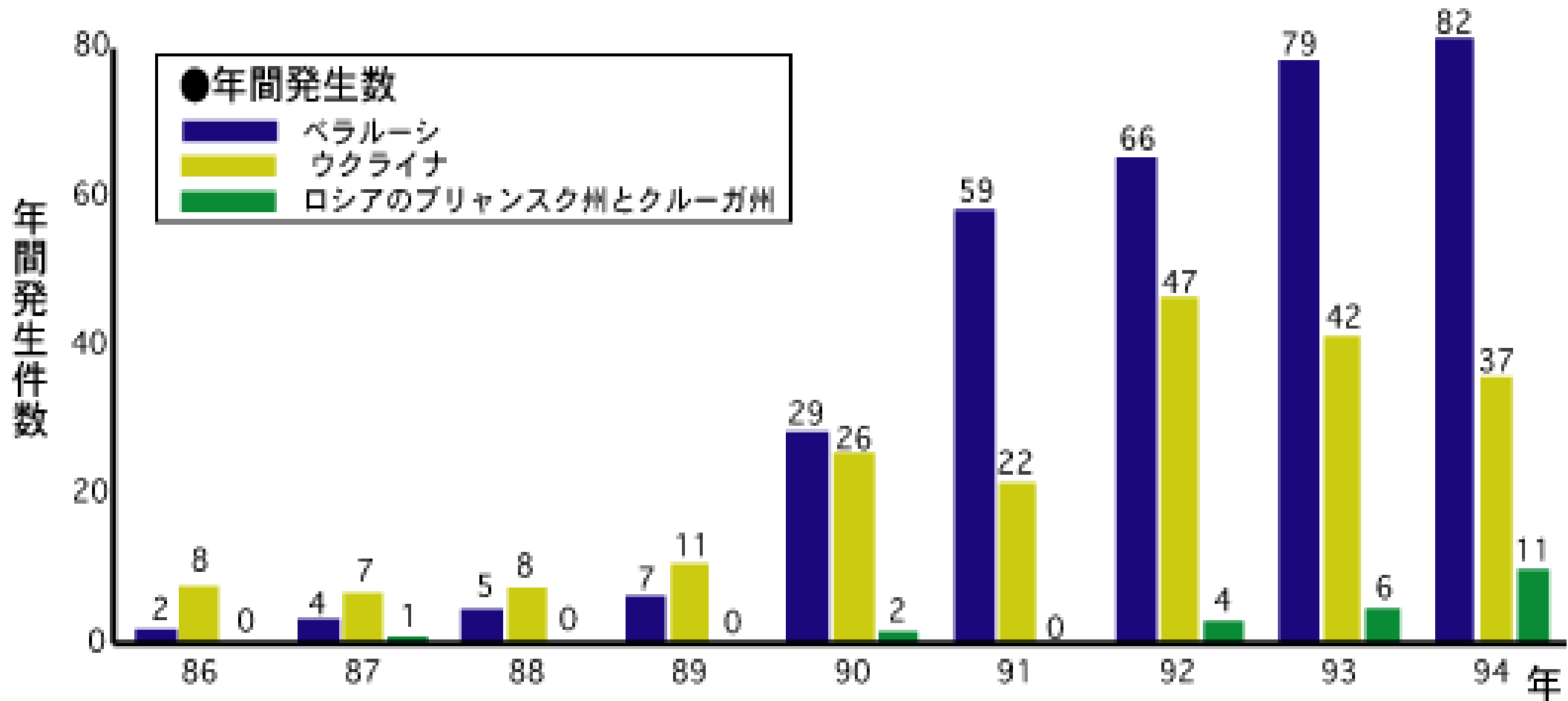


図2 ベラルーシ、ウクライナ、ロシアの小児甲状腺癌年間発生数(「原子力市民年鑑 2002年」より)



# 甲状腺の検査を受ける





甲状腺がん発見が手遅れとなり、  
脳に転移して苦しみながら亡くなった  
ターニヤの墓

# ベラルーシの子どもたちの治療をされた菅谷医師

1996年1月、信州大学助教授を辞し、ベラルーシのミンスクにある国立がんセンターで医療支援活動に従事。1999年6月、高度汚染地ゴメリ州立がんセンターで活動を継続。2000年12月原発より80km離れたモーズリ市に活動拠点を移し、家庭訪問検診や甲状腺検診を実施。2001年6月、5年半に及ぶ長期滞在を終え帰国。その後長野県衛生部に勤務し、2004年～2020年まで松本市長。NHK「チェルノブイリ診療日記」のさわりの3分を下記で視聴することができます。

[https://www2.nhk.or.jp/archives/tv60bin/detail/index.cgi?das\\_id=D0009010634\\_00000](https://www2.nhk.or.jp/archives/tv60bin/detail/index.cgi?das_id=D0009010634_00000)







前の写真の手術を受けた少女はその後背大人になって結婚し子供も生まれました





ТЕЛ.: +38/12/ 636 7 18, 636 64 59, 637 13 47,  
637 03 77, 637 68 65.  
ФАКС +38/12/ 636 64 57  
e-mail: rolan@naziona.pl (Коммерческий директор)  
Tatara@naziona.pl (Отдел продаж)  
kholo@naziona.pl (Маркетинг)  
www.naziona.pl

Минск生まれ。24歳。15歳のときに甲状腺ガンの手術。  
通信制大学で学びながら子育てをしている。



# 小児甲状腺ガンの急増とIAEA等の対応

89年ベラルーシ保健大臣がIAEAでゴメリ地方で小児甲状腺ガンと新生児先天異常が有意に上昇と報告。

→WHO：病気の増加は心理的ストレスによる。

90年小児甲状腺ガン急増→赤十字：「健康悪化は認めるが放射能とは無関係」

91年IAEA国際諮問委（委員長重松逸造元放影研理事長）による現地調査報告：「放射線被曝に直接原因があるとみられる健康障害はなかった。ガンや遺伝的影響の自然発生率が将来上昇するとは考えにくい。甲状腺結節は子どもにはほとんど見られなかった。データからは事故後の白血病または甲状腺ガンの顕著な上昇は観察されなかった。移住や食品の制限はもっと小規模でよかった。不必要な食品基準の緩和を検討すべき。」しかし調査した汚染地の子どもは350名。これでは通常100万人に1人と言われる小児甲状腺ガンが見つからなかったとしても、ないと断定することは統計的にもできない。しかし甲状腺ガンはありえないと断定した結果、早期発見の体制がつかられず多くの子どもたちが手遅れで亡くなった。後にIAEAが認定した15名どころではない。

92年ベラルーシ放射線医学センタードロズド医師：ホイニキ村の子1132人のうち6名が甲状腺ガンを発症（通常の2650倍）したことを「ネイチャー」に掲載し世界的反響。

93年WHO：「甲状腺ガンの原因が原発事故であるのは明らか」

95年IAEA：甲状腺ガンのみ放射能の影響と認定、白血病、脳腫瘍、小児糖尿病、免疫力低下に伴う病気は一切認めず。

96年チェルノブイリ国際会議：「ストレスや心配から引き起こされた可能性もある」とし甲状腺ガン以外は事故の影響と認めず。2006年のIAEA、WHOによるチェルノブイリフォーラムもこれを追認。

# 小児甲状腺ガンを巡る論争

今中哲二 原子力資料情報室通信No. 261 1996年2月

1992年ベラルーシでの小児甲状腺ガンの急増を報告するカザコフ論文と甲状腺ガンが放射線影響であるとするWHOの学者の論文が「ネイチャー」に掲載。IAEAの反論と**その批判**。

1. 甲状腺ガンの診断は確かか。

WHOや日本などの専門医によって確認されている。

2. 甲状腺検診の普及と診断技術の進歩による見かけの増加ではないか。

検診普及と技術進歩の効果を定量的に評価するのは困難。しかし同じ汚染地域で事故後に生まれ、放射性ヨウ素による甲状腺被曝を受けていない子供には甲状腺ガンがほとんどない。

3. 甲状腺の被曝量とガン発生率の相関が示されていない。

ベラルーシでは汚染の大きいゴメリ州での甲状腺ガンが最も大きい。ウクライナも同様。

4. 発生数だけでは議論できない、母集団が固定された疫学的研究が必要である。

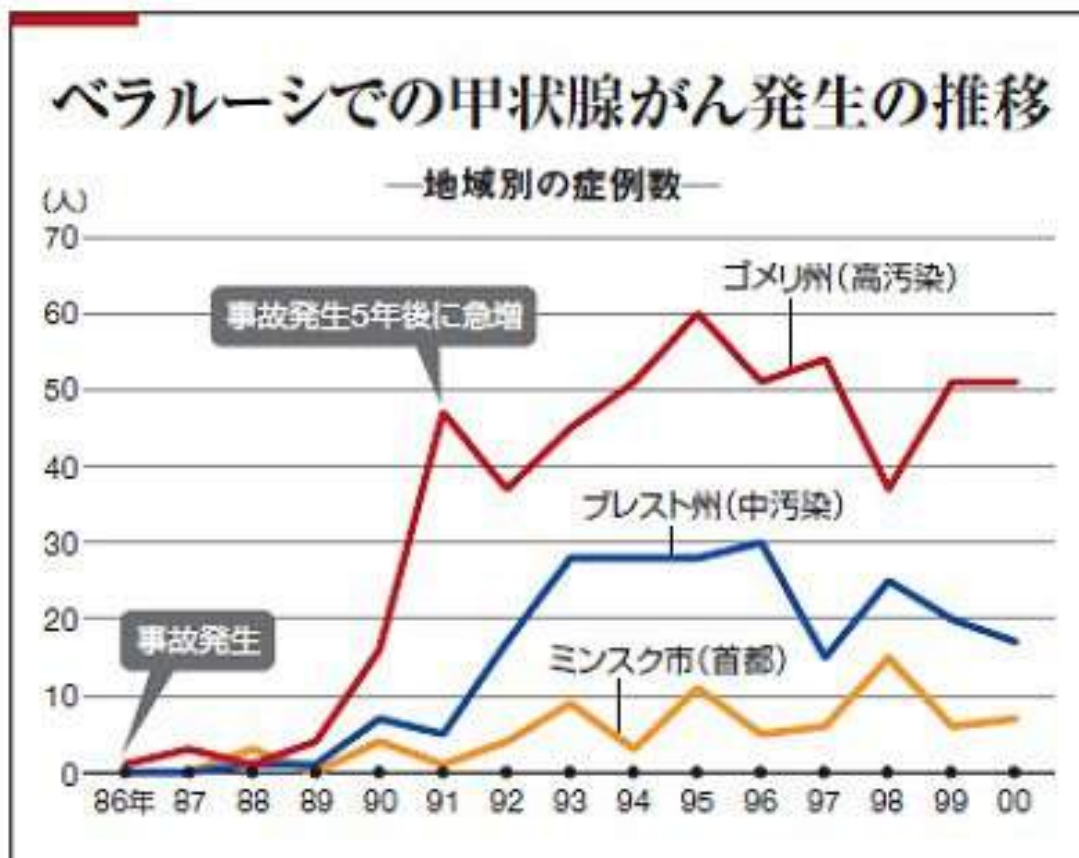
ベラルーシでは甲状腺ガンの子供はすべてミンスクの甲状腺ガンセンターで治療を受ける。州全体の子供、国全体の子供を母集団と考えてよい。ウクライナも同様。

5. 被曝影響と考えるには潜伏期が短すぎる。

これまで放射線被曝によるガン発生には10年余りの潜伏期間があると考えられてきた。チェルノブイリで早いのは被曝集団が数100万人と大きいためガン増加の立ち上がりは早く観察されやすいこと、風土的にヨウ素不足地帯であり、ガン誘発の感受性が大きい集団であるから。

# データからわかること

被曝量とがん発生率との間に強い相関がある。甲状腺がん多発の原因は被曝である。  
2001年には1986年事故による放射性ヨウ素で被曝した15歳未満はいなくなった。⇒発症数減  
(それでも甲状腺がんが10数名発症しているのは放射性セシウムの影響も考えられる。)





# 日本政府のチェルノブイリ事故評価と福島事故との比較

首相官邸HP平成23年4月15日

長瀧 重信長崎大学名誉教授 佐々木 康人前国際放射線防護委員会（ICRP）主委員会委員

## 1.原発内で被ばくした方

\* チェルノブイリ:134名の急性放射線障害。3週間以内に28名が死亡。(その後現在までに19名が死亡しているが被ばくとの関係は認められない。)

\* 福島では、原発作業者に急性放射線障害はゼロ

## 2事故後、清掃作業に従事した方

\* チェルノブイリ:24万人の被ばく線量は平均100ミリシーベルト、健康に影響はなかった。

\* 福島ではまだ該当者なし。

## 3周辺住民

\* チェルノブイリ:高線量汚染地の27万人は50mSv以上、低線量汚染地の500万人は10～20mSvの被ばく線量と計算されているが、健康に影響はない。例外は小児甲状腺がん。汚染された牛乳を無制限に飲用した子供の中で6000人が手術を受け、現在までに15名が亡くなっている。

\* 福島では1001Bq/kgを超える牛乳は流通していないので、問題ない。住民の被ばく線量は20mSv以下なので放射線の影響は起こらない

# I 死者の数とは 定義やデータ自体を問う

犠牲者をどう定義するか 官邸文書のように直接の死者だけしか言及しないのは国際的にも誤り  
WHOが採用している国際がん研究機関（IARC）のCardisらによる推定

\* IAEAも含むチェルノブイリフォーラムは、2005年に「放射線被曝にともなう死者の数は、将来ガンで亡くなる人を含めて4000人」としている。

直接の死者56名：消火活動に当たった職員や消防士の急性障害者134名中、直後に死亡した人28人、その後亡くなった19人、甲状腺ガンの子9人の56名を事故の直接の死者

集団が浴びた放射線量によって生じる過剰なガン死を3940名と推定する：対象集団60万名

内訳 事故処理者リクビダートル20万人から2200人、事故直後30km圏避難民11.6万人から140人、高汚染地域居住者27万人から1600人

\* どの範囲まで考えるかにより、予測は異なる。

WHO：ロシア・ベラルーシ・ウクライナの汚染地帯に住む740万人を対象に予想される死者9000人、

国際ガン機関IARC：ヨーロッパ全域5億7千万人を対象に死者16000人と推定。

**「チェルノブイリの災害は数万人の死者に対して責任関係があったはずだ。いかなる『科学的』真実も、この単純な『人間的』真実にとってかわることはできない。」**

（デュピュイ「チェルノブイリある科学哲学者の怒り」明石書店）

# 被曝による過剰ガン死の推定

国際放射線防護委員会ICRP：**ガン発生確率が被曝量とともに直線的に増加するという「しきい値なし直線モデル」**を採用  
広島長崎のデータ：**1 Svの被曝でガン死確率は10%増える**  
ICRPは低線量被曝の場合はリスクを半分として致死ガンのリスク係数を**0.05/Sv**と想定【**0.1とすべきだという意見も**】  
放射線の影響は確率的なので**「集団線量」**という考えを用いる。  
100000人が100mSvの放射線を浴びれば、集団線量は  
100000人×0.1Sv=10000Sv・人 と考える  
1人が1 Svを浴びるとガン死のリスクが**5%【10%】**増える  
がん死は10000Sv/人×0.05/Sv=500人【**1000人**】増える  
ガンは死因の30%を占める。事故による被曝がなくても10万人の内3万人はがんで亡くなる。それが500【1000】人増えても、一人ひとりはずなぜがんになったかはわからない。  
100mSv以下でも**ガン死が起こるが、多数の他のガンにまぎれて統計的に検出はできない**。しかしその犠牲者は存在する。

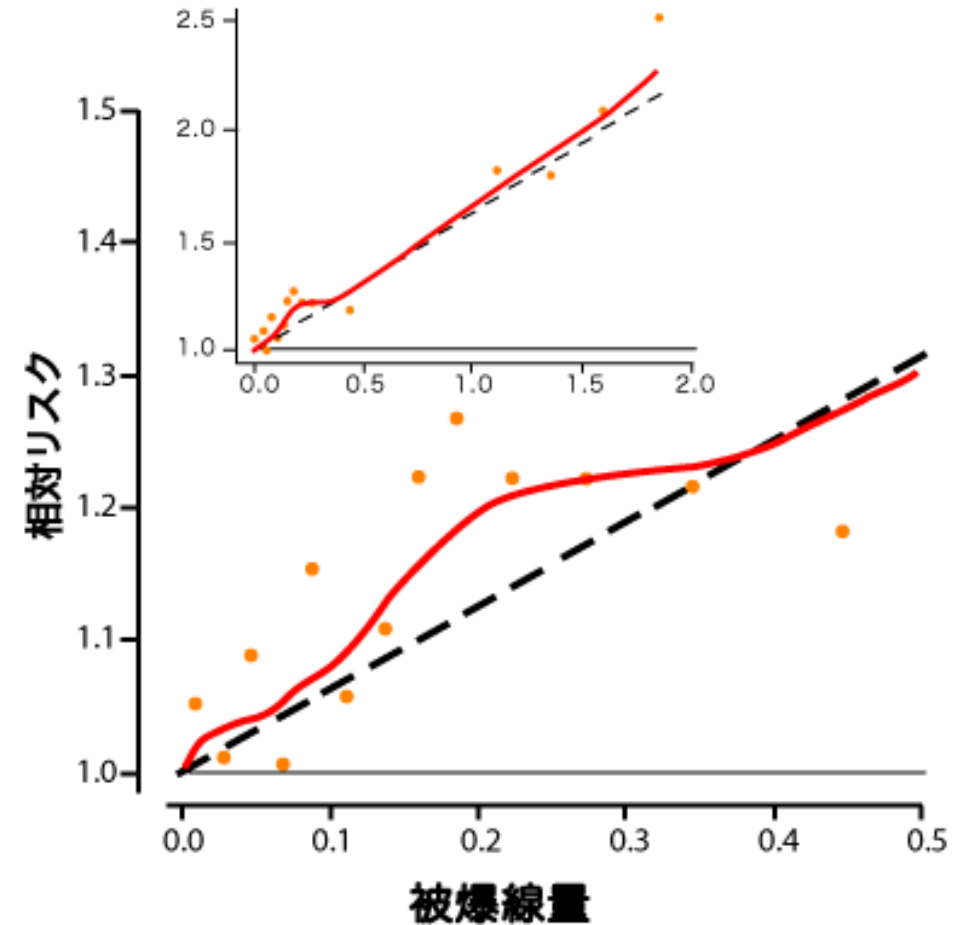


図4 被曝線量と発がんリスクの関係  
〔原爆被曝者における低線量放射線のがんリスク RFRE Update Vol.12, 2001年より、一部改変〕上の図は0から2Svまでのリスクで、下は0から0.5Svまでの部分を拡大したもの。赤の実線はリスク測定値(オレンジの点)を結んだもの、点線直線は0から2Svの線量域から外挿した直線型リスク推定。しきい値があるという証拠は見つかっていません。



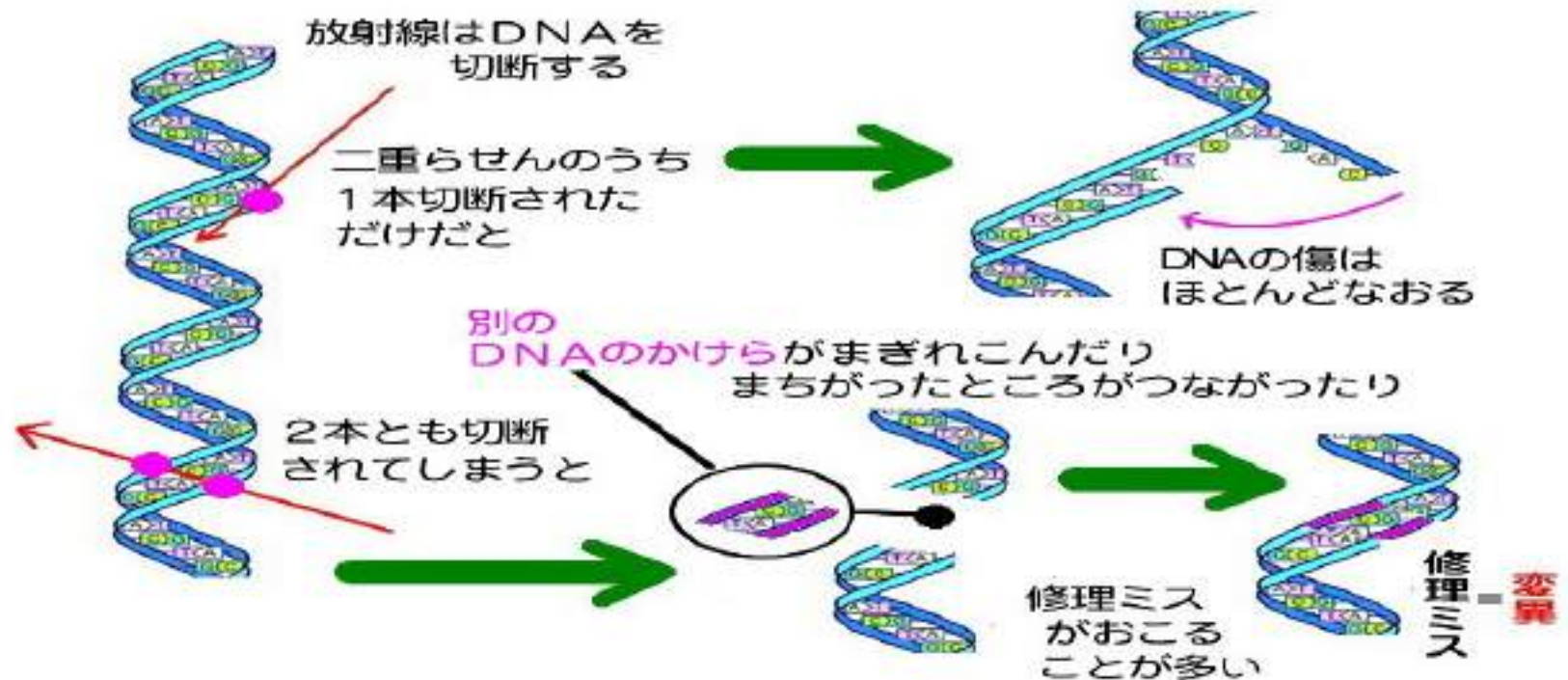
# 因果関係をどうとらえるか（論理的証明ではなく確率的判断 疫学の方法論）

被曝しなくてもガンになる人は多い 他にも様々な原因がある（たばこ、化学物質、食品…）

被曝してもガンにならない人もいる 被曝すればDNAが切断されるが、多くは修復される。修復ミスでガン細胞が生まれる。それは偶然による。確率的であり、論理的に証明できることではない。

そこで被曝した人々と、被曝していない人々で、それ以外の条件が同じとみなせるときにがん発生率がどのくらい異なるかを統計的に分析する。そうして得られた過剰リスク比が原因確率である。日本の裁判では喘息など大気汚染公害で50～67%以上、の原因確率、原爆症認定では10%以上の原因確率が認められれば、因果関係を認めてきた。

## 放射線によるDNA切断



## Ⅱ 小児甲状腺がん以外の影響はないのか？ データ自体を問う

被曝はがん以外にも免疫力低下による様々な病気を引き起こす。

例 ベラルーシ保健省のデータ：事故前の1985年には90%の子どもが健康状態。

しかし2000年には20%以下に。特にゴメリでは10%以下に。

高濃度に汚染されたブレスト州ルニネツ地区の子どもの疾病は86年には17%だったが92年には61%に。「チェルノブイリ被害の全貌」岩波書店.p.38

しかしIAEAはそれらを事故の影響とは認めない。

被曝線量データが不十分 ⇒ 調査しなかったソ連政府、福島でも同じ

被曝ではなく経済破綻の影響 ⇒ 複合的だが被曝影響も含まれる

チェルノブイリフォーラム2005報告も「現時点では白血病や甲状腺ガンを除くガン発症率の上昇が汚染地域の住民にみられるという証拠は提示されていない。とは言え、固形ガンの潜伏期間は白血病や甲状腺ガンよりも10年から15年長く、事故で放出された放射能の影響を断定するには時期尚早である。」

「影響がない」と断定することは科学的でも人間的でもない。データが不十分な中でも、現地の医師が直面した現実を考え、科学者として誠実に考えていくべきではないか。

# Ⅲ 科学と政治 予防原則

人々は科学に白か黒かを求める。例えば避難するかとどまるかについて

- \* 影響は確率的 また将来の影響は未知のことも多い
- \* しかも人により放射能への感受性(リスク) が異なる。

胎児、子どもは細胞分裂が活発なので影響が大きい

- \* 社会的関係（学校、仕事、親戚、知人）の中で各自が判断するしかない

その時に科学者はわかっている事実を正確に伝え、分からないことはわからないと率直に伝えること。そして**WHOの予防原則**を念頭に。

1992年の国連環境開発会議（UNCED）リオ宣言の原則15。

「環境を保護するため、予防的方策は、各国により、その能力に応じて広く適用されなければならない。深刻な、あるいは不可逆的な被害のおそれがある場合には、**完全な科学的確実性の欠如が、環境悪化を防止するための費用対効果の大きい対策を延期する理由として使われてはならない**」

予防原則に関するウィングスプレッド合意声明

「ある行為が人間の健康あるいは環境への脅威を引き起こす恐れがある時には、たとえ**原因と結果の因果関係が科学的に十分に立証されていなくても、予防的措置がとられなくてはならない**。このような状況においては、証明の責務は市民にではなく、行為を行なおうとする者にある。



# 人々の闘いによって成立したチェルノブイリ法

ベラルーシやウクライナでは、事故を引き起こしたソ連中央への反発と独立の機運が高まる中で、事故により生じた社会の分裂を回復し、民族の希望である子どもたちを守るために手厚い支援を行おうとした。91年2月にウクライナ共和国最高会議は次の決定をした。

「基本原理は1986年生まれの子にとって、それぞれの地域で事故前に住民が受けていた被曝量を越えるチェルノブイリ原発事故と関連した追加被曝量の実効線等量が **1mSv/年** そして **70mSv/生涯** を越えないことである。」

この考えがチェルノブイリ法の規定に受け継がれ「一般住民の実効線量が1mSv/年以上の地域、土壌のセシウム137濃度が37000ベクレル/m<sup>2</sup>以上」の地域を「汚染地」と規定した。**5mSv/年以上の地域からは全員避難させ、1~5mSv/年の地域については避難の権利を保障しつつ避難するか否かを住民の選択に委ねた。**

人口1000万の5人に一人が被曝したベラルーシのケニーク副首相は、「事故がもたらした**社会の分裂を修復し200万人に希望を与える**」ためにこの法律を制定したと語った。

子どもの被災者に対する医学的処置は最優先され、最高の医療施設と保養施設を使用。被災者で健康被害が大きい人への特典。治療、保養、家賃や電気代割引、学校の便宜、税金減免、年金支給引き下げと増額、交通特典など

# 保養の権利

汚染地域からの避難の権利を保障するとともに、そこに住むことを選択した家庭に対して様々な権利を保障した。その一つが「域外保養の権利」である。これは一定期間子どもたちを汚染されていない地域に連れ出し保養地で暮らせることで**累積被曝量を下げる**こと、また自然の中で遊ぶ自由が制限される**汚染地の子どもたちに思う存分遊ぶ体験を与える**ことを目的としている。

小寺隆幸「ベラルーシのチェルノブイリ汚染地域の子ども「保養」と福島  
の課題」東京学芸大学環境教育学研究 第26号(2017)より (配布資料参照)

# ウクライナの事故被災者救済 91年チェルノブイリ事故被災者救済法

法律で被災者と認められた人

86年54万→95年320万（うち子ども100万）

子どもの被災者に対する医学的処置は最優先され、最高の医療施設と保養施設を使用。

被災者で健康被害が大きい人への特典。治療、保養、家賃や電気代割引、学校の便宜、税金減免、年金支給引き下げと増額、交通特典など

☆しかし保養費用も91年1/2 95年1/8 しか国が出せなかった 医薬品は無料でも店にない

国家支出の16%（92年）←企業から給与12%拠出

その後 2014年以降の内戦、そして2022年からロシアの侵攻により、救済事業は機能していない。チェルノブイリ被災地の子どもたちも国外に避難し、国内にとどまっても甲状腺手術後に不可欠のホルモン剤さえ十分手に入らない状態が続いている。



# 2023年夏 ウクライナでの保養を実施

■場所：子ども保養施設「ショコラード（チョコレート）」リビウ州ストルイ地区スラフスキエ

■期間：2023年7月11日  
～7月22日（12日間）

■参加者：子ども30人  
（8～16歳／ジトームル州 オヴルチ市、ナロジチ市、周辺の村より）、引率者3人

■参加者の病名：慢性気管支炎、慢性扁桃炎、心臓の病気、咽頭炎、慢性膵炎、側弯症





# 24年ウクライナ での保養

子ども保養施設「リバー・  
キャンプ」ミクリチン村  
2024年6月27日～7月  
6日（10日間）

参加者：子ども35人（8  
～17歳／ジトーミル州オ  
ヴルチ市、ナロジチ市と周  
辺の村より）引率者3人

■参加者の病名：慢性  
気管支炎、慢性扁桃炎、  
心臓疾患、咽頭炎、慢性  
膵炎、側弯症





# 保養に参加した子どもたちの声　ダリーナ15歳　ナロジチ地区

ロシアの軍事侵略は、罪のない命だけでなく、世界の平和も奪いました。2022年2月24日午前4時、爆発音と、上空を飛ぶ飛行機やドローンの音で目が覚めました。戦争状態での生活は、当時も今も非常に困難です。絶え間ない砲撃、毎晩地下室にこもり、電気が消え、水道が止まりました。体調は悪くなり、精神的にとっても辛く諦め状態で、うれしいこと、楽しいことなど何もありませんでした。

でも、リバー・キャンプで過ごすうちに、気分も体調も良くなりました。ここで過ごしながら私は再び喜びや満足感、心の平穏を取り戻すことができました。私を支えてくれる多くの友人と出会い、ここで過ごした日々は一生忘れないと思います。遠足に行ったり、プールで泳いだり、さまざまなイベントに参加したり、ただおしゃべりをしたりしていました。このような困難な時には、ただのおしゃべりで気を紛らわせることも、前に進むのに役立つと思います。

自分の目で山や美しい風景を見ることができてとても幸せです。リバー・キャンプは私にとってもう一つの故郷となりました。不安から解放される機会をくださったチェルノブイリ子ども基金に深く感謝いたします。来年もリバー・キャンプに戻れることを願っています。



## 2024年保養の感想

### アレクサンドラ 16歳 ナロジチ

ロシア・ウクライナ戦争が始まり、私たちの日常は一変しました。当時私は14歳でした。朝の4時、激しい爆発音で目が覚めました。私は初め雷雨かと思いました。でもこれが雷雨でも冗談でもないと思ったとき、とても怖くなりました。親戚や家族のことが心配でした。そして戦争の1年前から兵役に行っている姉のことがとても心配になりました。戦争が激しい時でも私はナロジチに留まり、どこにも避難しませんでした。

今回、このような保養の機会をくださったチェルノバイリ子ども基金に感謝します。ここに来て私は心を開放し、新しい友人を見つけ、ゆったりと過ごしました。保養指導員の人たちは、親切で優しく素晴らしい人たちです。仲間たちと共に楽しい時間を過ごしています。私がこのキャンプで過ごした時間は、**戦争が始まってから今までの中で最も充実したものでした。**素晴らしい日々感謝します。またここに帰ってきたいです。「リバー・キャンプ」は最高です！

### ナザール13歳 ナロジチ

みなさんの優しさと行動は僕たちに力と、より良い未来への希望を与えてくれます。**戦争は僕たちに多くの悲しみと喪失をもたらしました。**町や村は破壊され、普通の生活が壊され、多くの人が家や親戚を失いました。そのような中でみなさんのおかげでこうして休養することができたことに深く感謝します。この戦争中でのみなさんのご支援は、僕たちが独りぼっちでないことを思いおこさせてくれます。力を合わせればあらゆる困難を克服できると信じています。僕たちは力を合わせればどんな困難も乗り越え、平和を取り戻すことができると信じています。

# NGO「チェルノブイリの子どもたちの生存」キエフ（キーウ）市

- 長い間子ども基金のために保養や支援金・物質の配布などを行なってくださっていた代表のリュドミラさんは、2022年7月11日、病気のためキエフで亡くなられた。戦争が死期を早めたに違いない。その遺志を受け継ぎ、1989年までチェルノブイリ事故の処理に携わっていた夫のウラジーミルさん【写真左】が新たな代表となり、精力的に働いてくださったおかげで、ウクライナ国内の3か所の病院と子どもの芸術教室の緊急支援を行うことができた。
- ナロジチ、オヴルチ：チェルノブイリ事故による高濃度放射線汚染地区。一昨年まで行ってきた保養には、この地区に住んでいる子どもたちが参加していた。
- キエフの内分泌研究所：子ども基金は長年、医薬品や医療機器の支援を行ってきた。戦争の間も患者の治療が続けられ、病院に来られない患者には、ボランティアが薬を届けていた。

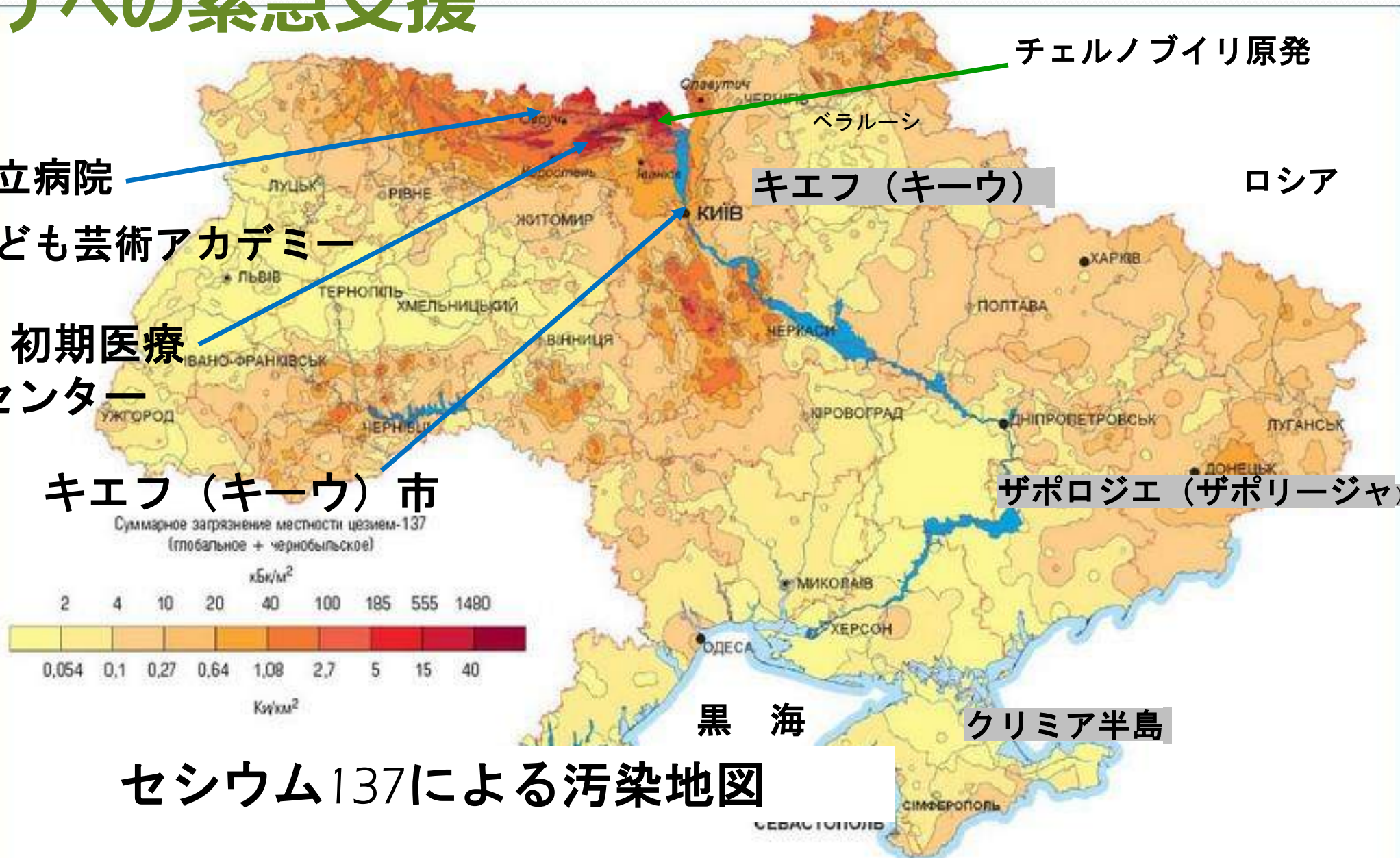


子どもたちの生存の代表とスタッフ



# ウクライナへの緊急支援

- オヴルチ市立病院
- オヴルチ子ども芸術アカデミー
- ナロジチ公立 初期医療ヘルスセンター
- 内分泌研究所



セシウム137による汚染地図




# 内分泌代謝研究所 放射線診断・治療部門

## 甲状腺がんの手術を受けた患者への医薬品支援 2022年8月



甲状腺がんの手術を受けた患者、6,242人が登録。  
そのうちチェルノブイリ事故当時子どもだった世代の患者は4,214人。(2021年1月時点)

  
ДЕРЖАВНА УСТАНОВА  
"ІНСТИТУТ ЕНДОКРИНОЛОГІЇ ТА ОБМІНУ РЕЧОВИНИ ім. Е. ПЛОМІСЯРІ"  
НАЦІОНАЛЬНОЇ АКАДЕМІЇ МЕДИЧНИХ НАУК УКРАЇНИ

640 04, Київ  
вул. Володимирська, 67

Тел. (044) 262-84-44  
Факс (044) 225-29-90

Уважаемая Мари Сасава, мы благодарны Чернобыльскому детскому фонду Японии за вашу помощь в закупке гормонального препарата (Эутирокс), необходимого многим пациентам с патологией щитовидной железы.

Наш Институт эндокринологии и обмена веществ, является специализированным и ведущим учреждением для оказания помощи больным с такой патологией. Сейчас мы возобновили работу института в полном объеме: консультативную, обследование, операции, облучение. Также наши специалисты оказывают консультативную и лечебную помощь в других учреждениях.

Мы благодарим Вас от всех пациентов, которые получают необходимые лекарства бесплатно в это сложное время.

С уважением, директор  
института

Н.Д.Троцько.

# ウクライナ内分泌研究所に 甲状腺の薬を送付 2024

甲状腺の患者の手術と治療を行っている内分泌研究所（キーウ市）に、子ども基金は長年にわたり医薬品や医療機器の支援を行っています。

子ども基金の支援により2023年に購入されたチロキシン（甲状腺ホルモン剤）3,310箱は、すでに1,200人の患者が受け取っており、8月5日時点で残り158箱になっています。この薬は、甲状腺手術後の患者にとって生きていくのに欠かすことのできないものです。

⇒ナタリヤさんと看護師長オクサーナさん手にしているのは子ども基金のシールが貼られた医薬品です。



## ナタリヤ 1981 年生まれ キーウ（キエフ）市

- 幼少期の健康診断で甲状腺の軽度の肥大（甲状腺腫）が見つかり、その後は2年に1回超音波検査を受けてきた。2020年、甲状腺に3つのリンパ節が見つかり、同年、内分泌研究所で手術が行われた。それ以来、彼女は放射性核種診断部門で年に2回検査を受けている。
- 戦争が始まってからも、彼女はずっとキーウで暮らしている。子ども基金の資金援助により、私たちが2022年2月中旬、戦争開始の1週間前に速やかに内分泌研究所のためにチロキシンを購入したおかげで、戦争の最も困難な最初の数か月間、彼女はこれらの薬を受け取ることができた。さらに彼女は、キーウの物流封鎖によりそのような薬が手に入らなくなった病気の友人を助けたこともあった。そして2024年5月末、ナタリヤは子ども基金の支援による新たなチロキシンを同研究所から受け取ることができた。



# ナロジチ公立 初期医療ヘルスケアセンター

自動血液分析装置の支援 2023年1月



## 血液検査のための医療機器を支援。



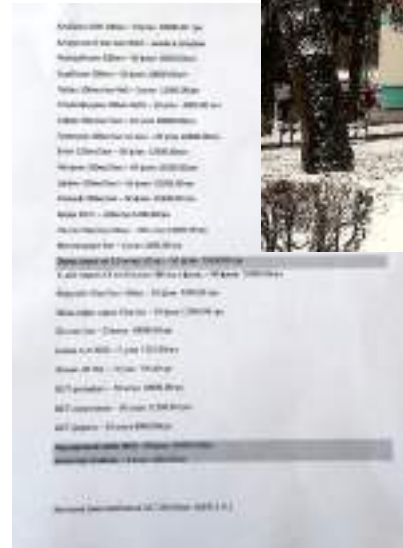
かつて子どもたちの保養プロジェクトに、引率者として参加したエレナ医師。

「この地域は放射性物質により汚染されていて、人々はチェルノブイリ事故による病気に苦しんでいます、特に子ども世代には貧血の血液検査を緊急に必要としています」  
医療機器は2022年12月中旬には病院に届いていたが、電力施設への攻撃のため停電が続き、すぐに使えなかった。年が明けてから、電気が復旧して使えるようになったと写真と共に連絡が届いた。



# オヴルチ市立病院 小児産婦人科

- 2011年に子ども基金が支援をした保育器は、今でも使われている。
- 戦争が始まってから、何人かのスタッフが国外へ避難したり、建物の一部が爆撃で被害を受けたりして大変だったが、その間も病院は機能していた。医薬品、医療機器が不足しているという。ロシア軍が侵攻した2/24以降、今年の3月末まで、この病院で247人の子どもが生まれた。
- 写真右：支援要望の医薬品リスト。
- さらに、手術用のランプの支援が決まっていて、4/20/に送金手続きをした。





# オヴルチ市立病院 医薬品支援 2023年2月





# 子どもたちのクリスマス会への支援



ウクライナ  
「オヴルチ子ども芸術アカデ  
ミー」 2022年12月30日

ウクライナでは、この前日、12月29日に各地にミサイル攻撃があった。当日の朝もオヴルチでは空襲警報が鳴り、子どもが外出するのを恐れた親も多く、当日になって参加を見合わせた子もいた。23年、24年のクリスマス会も支援しました。



# オヴルチ子ども芸術アカデミー



木彫り細工、わら細工、ステンドグラス、ビーズ細工、絵の教室など。

子ども基金の保養プロジェクトには、この教室に通っている生徒も参加していた。





# 授業で使うノートブックパソコンを支援



写真の女性はこの学校の卒業生で、今は先生。彼女は幼いころ子ども基金の保養プロジェクトに参加していた。





24年9月、  
新年度最初の教室  
にて。  
テーブルの上には子  
ども基金  
の支援で  
購入した  
新しい絵  
の具や文  
具類。





# オヴルチ子ども芸術アカデミー校長先生から 24.9

チェルノブイリ子ども基金のみなさん、子どもたちが使用する品物購入のためのご支援をいただき、まことにありがとうございます。校長の私は、子どもたちが授業で使用する材料の購入資金について、いつも頭を悩ませていました。みなさんがご存知の通り、私たちの国では戦争が続いています。資金というのはすべて防衛のため、建物の修理や、警報が鳴った時に避難する場所（それが無いところに）を作るためなどに使われています。

ここでは約85人の子どもが絵画、ガラス絵、木工細工、わら細工を学んでいます。みなさんのご支援のおかげで、この子どもたちが授業で使うのに十分な量の材料を購入することができました。

絵画教室には、絵の具、筆、画用紙、留めテープを購入しました。木工細工の教室には、ナイフを研ぐための電動器具を購入しました。これにより細かい作業がよりやり易くなります。

わら細工の教室には、はがれにくく、その上、健康に害を及ぼさない原料で作られている接着剤、そして専用のハサミを購入しました。以前からこのようなものが必要だと思っていました。素晴らしい品物を買うことができたことに、本当に感謝しています。

戦争中の私たちの生活について少しお話しします。ミサイルやドローン攻撃のある中で暮らすのは、本当に恐ろしいことです。空襲警報は1日に何度か発令されます。保育園、学校、病院も攻撃されます。私たちはこのような状況にあります。希望はただ、私たちの軍隊と、日本を含む友好国からの支援だけです。

みなさんに心から感謝いたします。私たちの交流がこれからも続きますようお願いしています。ありがとうございます。

2024年9月13日 校長 N・クリモヴィチ



2025 2 18

# オブルチ の子ども たちの 絵画展

日比谷  
東京新聞本  
社にて  
3月1日まで



2025年 2・17 [月] ~ 3・1 [土]

戦禍の子どもたち

ウクライナの絵画展



フサチェンゴ・ダリヤさん(10)の  
「冬がやってきて鳥たちを家に呼び戻した」

「戦争が終わったらウクライナの子どもたちがみんな家に帰ってくることを願っている。鳥たちが他の国から戻ってくるのと同じように」とガラスにアクリル絵の具で描いた



迷彩服の兵士が木陰で休み、少女は窓辺で平和を祈る。りりしい犬は地雷探知犬。破壊された病院や輸送機、平和の象徴のハト。ウクライナ北部オブルチの子ども芸術アカデミーに通う8、17歳の水彩や色鉛筆で描き、昨年6月に届いた31点には、戦争が濃い影を落とす。今年1月には、地元の祝祭や花火をアクリル絵の具でガラスに描いた12点が届いた。

アカデミーには現在、小中高生ら1000人が学校とは別に通い、絵画や立体作品などの制作を学ぶ。オブルチは「10数カ月、ミサイルやドローンなどの攻撃を受けていないものの、空襲警報は毎日

作品を見るチェルノブイリ子ども基金事務局長の佐々木真理さんと理事の向井盛子さん＝練馬区で



教員出る。そのたびに子どもたちは地下室に駆け込み、卓球台の上で絵を描く。家族が前線で戦っている子もいる。

基金は原発事故後の1990年代初めから30年以上、放射能に汚染されたウクライナや隣国ベラルーシの子どもたちの心と体の健康のための支援を続けている。医薬品や画材などの購入費を送るほ



文と写真・大野孝志/紙面構成・岡本恵里子

ロシアがウクライナに侵攻し、24日で3年になる。チェルノブイリ原発事故で汚染された地域の病院や芸術学校など、子どもたちへの支援を続ける練馬区の市民団体「チェルノブイリ子ども基金」に今年も、現地の子どもたちが描いた絵が届いた。作品には平和への願いと将来の夢、支援への感謝が込められている。昨年届いた作品を含め計43点を17日から、東京新聞本社で展示する。

## ウクライナ 戦禍の子の絵画



● ホミチ・ミコラさん(17)の「戦争と平和」  
「お父さんが早く戦争から戻ってくることを願って」と画用紙に描いた

## 17日から本社で43点展示 「絵の向こうに思いをさせて」

戦禍の子どもたちーウクライナの絵画展 17日～3月1日午前10時～午後5時(日祝日休館)、千代田区内幸町2の1の4 東京新聞本社(日比谷中日ビル)正面玄関ロビー。無料。期間中、チェルノブイリ子ども基金スタッフがチャリティーカレンダーを販売し、支援に充てる寄付金を募る。東京メトロ有楽町線C4出口すぐ。都営三田線内幸町駅A7出口から徒歩5分。

か、被ばくの心配のない所で一時的に過ごす保育に子どもたちを招く。活動はロシア侵攻後も続いている。

事務局長の佐々木真理さん(61)は「子どもたちがどう暮らし、どんな気持ちで描いたか、絵の向こうに思いをさせてほしい。日本では最近では戦況の報道が中心だが、現地の人の生活のことも考えてもらえたら」と願う。

作品は愛知東郷町の「井核、平和を求めろ写真・絵画展事務局」が保管し、要請があれば各地での展示に貸し出す。送料は開催者が負担。事務局は今回の展示にも協力した。



空襲警報で地下室に避難し、卓球台の上で描く子どもたちーウクライナ・オブルチで(チェルノブイリ子ども基金提供)

地下の卓球台 描く平和







## ⑱ 戦争反対！

ホミチ・テチャナ (15)

両親、姉と暮らしている。「麦わら芸術」の教室に通っている。サテンリボンで花を作っている。

爆発音を聞くことなく、静かに、安心して暮らせるように願って描いた。

花屋さんになりたい。

## ⑳ 「イワーナ・クパーラ」 (夏至祭、クパーラ祭)



ミシューラ・ソフィヤ  
(10)

両親と暮らしている。庭や畑が好き。

夏休みとカルパチヤでの保養を願いながら描いた。

花屋さんになって、美しい花束で人々を喜ばせたい。



## ㉑ 自由の翼

ホミチ・マクシム (14)

両親、兄と暮らしている。「木工細工」教室、「エコロジー」教室に通っている。

戦争後、土地の資源が回復することを願いながら描いた。

生態学者になりたい。



クバーラ  
祭(夏至  
祭)

ソフィヤ  
10歳

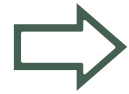
ガラス絵







**「戦争」  
キーラ  
15歳**



**「ウクラ  
イナ  
2024  
年」アン  
ドルーイ  
13歳**



ウクラ  
イナに  
平和  
を

スタニ  
スラウ  
13歳





## ◆日本の里親による支援(ベラルーシ、ウクライナ)◆

一人の病気の子どもを、日本の里親が経済的に支える。1998年の開始から、これまでに340人、現在は49人の子どもが支援を受けている。



ヴラッド：脊髄性筋萎縮症。歩くことができず、支えがなければ座っていることもできない。戦争が始まった当初は2週間ほど別の地域に避難したが、その後はずっと、自宅で。

空襲警報が鳴ると、窓から離れた、家の中の壁で囲まれた場所へ、自分で這っていくことを覚えた。

○サーシャ：同級生のほとんどが別の地域に避難していた時も、彼女は両親と自宅にいることを選んだ。畑仕事を手伝ったり、爆撃で被害を受けた祖母の家の修理を手伝ったりした。彼女の姉は、戦地で看護師として働いている。

ヴラッド（12歳）ウクライナ    サーシャ（16歳）ウクライナ

# チェルノブイリ子ども基金

<http://ccfj.la.coocan.jp/>

\* 病気の子どもをもつ母親たちの呼びかけを受け募金活動を始めたのをきっかけに1991年4月に設立。

\* これまでに医療機器、医薬品、ミルク、教材、放射線検知器のほか、救援物資数十トンを被災地に送っています。1996年7月から毎年、ベラルーシとウクライナのチェルノブイリ事故被災地の病気の子どもたちのための保養プロジェクトを行っています。

\* 2022年度（1月—12月）の収入は約2040万円、支出は約2100万円、そのうちウクライナへ861万円を支援しました。

## \* 里親制度

甲状腺手術後の困窮家庭の子どもを対象に98年より開始。現在では甲状腺以外の病気の子どもも支援の対象になっています。これまでに270人の子どもが里親からの支援を受けています。

月50\$相当を2年間支援して下さる里親を募集しています。遠く離れた日本からの支援は、子どもたちの医療費などをまかなうだけでなく、子どもやその家族の大きな心の支えにもなっています。

\* ニュース「チェルノブイリの子どもたち」 年3回発行、HPでご覧になれます。

# なぜチェルノブイリに関わるのか

原子力発電に賛成か反対かを問わず、私たちはその電力を享受してきた。

しかし事故が起きれば、放射線は細胞分裂が活発な胎児から子どもにもっとも大きな被害を生み出す。

そして事故により数百年人が住めない土地が生み出される。また放射性廃棄物は10万年管理しなければならない。私たちが生み出したごみや失敗のために、未来の人々が苦勞する。

その責任の一端は私たちにある以上、せめて事故の被害を受けたチェルノブイリや福島の子どもたちにできることをしていきたい。

さらに私たちに問われているのは、世代を超えた民主主義と倫理の問題に向き合うことである。福島は少なくとも100年は続き、そこに住む子どもたちは今後何世代にもわたって低線量被曝の影響を受け、自然との触れあいも制限される。東京電力とともに、その電気を享受してきた私たちの世代の責任として、今後何世代かの子どもたちに、野原を駆けまわったり森で虫を探したりする子どもの時間を保障することはせめてもの償いではないだろうか。

民主主義とは今を生きる人々だけではなく、未来世代を含めて人権や平等を保障することであり、その第一歩として「保養」を考えていきたい。

- 「福島を戦後最大の公害ととらえ、環境民主主義を前進させること、それは現代の私たちの課題なのです。」（宮本憲一 朝日新聞2016年12月4日）



# チェルノブイリが私たちに問いかけること

## 人類は核をコントロールしえない

放射能を無害化する技術はない

放射線の影響 10電子ボルトで化学結合している細胞のDNAを数百万電子ボルトの放射線が直撃

人間が作り出してしまったプルトニウム この世で最も毒性の強い元素 きわめて長い間アルファ線を放出（ガンマ線の20倍の威力）Pu239は半減期24000年、人体に取り込まれると排せつされにくく、肺に達すると28マイクログラム（百万分の28g）で100%肺癌を発生させる。また骨表面に留まり骨癌の原因に。

原発を動かす限り、ウラン採掘から原発の廃炉に至るまでの被曝労働と低レベル放射能の排出は避けられない

放射性廃棄物の処分ができない 地層処分、海洋投棄

環境汚染と未来世代への膨大なつけを残す

# 国策としての原子力 核開発と 表裏一体となった『平和利用』

原発自体が原爆開発に必要な副産物

1953.12.8 アイゼンハワー大統領演説 Atoms for Peace

核の拡散を防ぐために原発を提供

「核兵器保有の潜在的可能性を高めることで発言力を」岸1958

「外交力の裏づけとして核武装選択の可能性を捨てない」1992外務省幹部

国策としての核燃料サイクル 保有するプルトニウムは30トン原爆4000発分

現在も推進派の本音は核兵器へのフリーハンドを持つこと

# 安全性神話を生み出す

## 日本社会のあり方

「原子力村」 政治家 官僚 産業界 大学 メディアの5者の癒着  
科学者・技術者の倫理の劣化

高汚染を測定しながらも住民に伝えなかった文科省の職員  
メディアの問題 明らかなごまかしも垂れ流し

国民の批判的リテラシーの不十分さ 教育の問題

権力にとって都合が良い「知識」を上から注入

ものを考えさせない教育 今回の放射線副読本も

市民自身が積極的に情報を得て、批判的に判断する力を

「一体誰がこれから生を享ける子どもたちにガンや先天異常の苦しみを与えることに同意したのか。」  
「人を死なせないための唯一の基準は放射線放出ゼロである。人殺しを容認している今日の社会を正当化することはできない。」

ゴフマン 1978年原子力裁判記録「シャットダウン」

**学会法人体制は学術への政府の介入をさらに強める！**

**IAEAが科学的に安全と言った以上、学会もそういうべきだ（内閣府室長）**



# ウクライナ戦争 私たちが問うべきことは

この戦争はプーチン政権・ロシア軍による侵略であり絶対に許せない。

しかしウクライナでの戦争は実は2014年から続き、15000名もが亡くなっている。更にその前にグルジアやチェチェンでプーチンによる残虐な戦争が行われていた。私たちは、国際社会はどれほど考えてきたか。

プーチンが戦争を行なう意図は、旧ソ連の勢力圏の維持にあり、特にウクライナに対しては、ロシアのものであるという大ロシアナショナリズムがある。

しかし同時に冷戦終結後のNATO、とりわけアメリカの対応がプーチンを追い詰め、戦争を始める口実を与えたこともおさえておきたい。

イスラエルのガザ攻撃も国連憲章違反。欧米のダブルスタンダードを認めてはならない。

戦争長期化の中で、和平か正義か？ 結論は出ないが、「小さき人々」の視点で私たち自身の問題として考える。軍備増強や核兵器を持つことで戦争を抑止できない。

国際法や国際人道法は無力なのか。現実主義対理想主義というように問題をたてて良いのか。国連憲章や憲法9条の理念こそ、現実的ではないのか。

# ウクライナの複雑な歴史

9世紀から13世紀 **キーフ・ルーシ**（ウクライナ語: Русь）

キリスト教の受容によりキリスト教文化圏となった。11世紀に中世ヨーロッパの最も発展した国の一つ。

1240年、モンゴル来襲によりキエフは落城し、崩壊した。

ルーシはモスクワに移り、14世紀にウクライナの大部分はリトアニア大公国、後にポーランドの支配下に。

14世紀から16世紀、ポーランド、リトアニアからの逃亡農奴を中心とした **ウクライナ・コサック** 集団が形成。

17世紀にはキエフを再建、本拠地を移し正教を保護した。ポーランドとウクライナ・コサックとの全

面戦争。

劣勢を挽回するため、ロシア皇帝に対しポーランドからの保護を求め、**ロシア皇帝の宗主権**を認めた。ロシア

はポーランドと戦い、**ドニエプル右岸はポーランド領、左岸及びキエフはロシア領**となった。

18世紀後半、エカテリーナ二世により完全にロシアの一部とされ、ウクライナ・コサック社会は消滅。

ロシアは1783年にクリミア汗国を廃しクリミアを併合。同地は1853年からクリミア戦争の主戦場となった。

また1772年のポーランド分割によってロシアはドニエプル右岸を取得、**ガリツィア地方（今日のウクライ**

**ナ西部およびポーランド南東部）はオーストリア領土**となった。

ロシア帝国による文化的抑圧（ウクライナ語禁止令）の中でガリツィアはウクライナ民族運動の中心に。

第一次世界大戦の結果、**ガリツィアはポーランド領**に。

1917年2月革命後、ウクライナでは中央ラーダ政府が誕生し、ロシアの臨時政府と自治拡大を巡って対立、

**「ウクライナ人民共和国」**を宣言。しかしソビエト政府はこれを認めず赤軍を派遣、放逐されたラーダ政府

はドイツと結び、以後3年間にわたる内戦に突入。1919年第3回全ウクライナ・ソヴィエト大会で**ウクライ**

**ナ社会主義共和国**が成立、1922年12月、ソ連邦の構成共和国となった。

# ソ連時代の苦難の歴史

## スターリンが1929年から始めた農業集団化の強行による大飢饉（ホロドモール）

ウクライナ民族主義者、ウクライナ人の知識人、集団化政策への反対者を容赦なく処罰。

土地を所有する自作農は人民の敵であるとして土地を没収され、収容所送りや処刑。農場には共産党員が見張りに送り込まれ、肉親を告発すれば子供にも食物や衣類やメダルが与えられた。

1932年から1933年にかけて大飢饉（ホロドモール）が発生。モスクワ政府は政府調達ノルマとして収穫物の大半を収奪。農民達は鳥や犬や猫、ドングリやイラクサ、病死した馬や人間の死体、赤ん坊を食べた事さえもあった。通りには死体が転がり、死臭が漂っていた。500万人が餓死し、農村では村が丸ごと全滅したケースもあった。この飢饉は強引な集団化や穀物調達によって人為的に起こされたもので、スターリンによるウクライナ民族主義への弾圧の一環。

## 第二次世界大戦中、ドイツ軍がウクライナの大半を占領。ナチの東方計画に基づき、劣等民族であるスラブ人から労働力や資源を根こそぎ奪い、民間人を虐殺し、将来的に絶滅させる構想。

ウクライナの人口4100万の16%が死亡（軍人の死者165万 民間人の死者520万）

第二次世界大戦の結果、ガリツィア地方などが新たにウクライナ（ソ連）に編入。

1954年、フルシチョフはクリミア半島をロシアからウクライナに帰属替えした。

## 1986年4月26日チェルノブイリ原発事故、多くの村が汚染され廃村に。キエフの子どもも避難。



# ソ連崩壊 ウクライナ独立1991年から30年の歩み

ソ連解体に伴い国有財産を人々に分配。しかし生活難の人々はそれを現金化。安く手に入れた人々が新興財閥**オリガルヒ**。政府と癒着し腐敗。ウクライナでも同様にオリガルヒが牛耳る。

**ブダペスト覚書1994年** ウクライナ国内に短距離戦術兵器や空中発射巡航ミサイルを含む約1800の核兵器が存在。ウクライナが領土から全ての核兵器を排除する。米・英・ロシアはウクライナに対して、6項目の約束の実行を「確約」。「ウクライナの領土保全ないし政治的独立に対して脅威を及ぼす、あるいは武力を行使することの自重義務を再確認する」、への「侵略行為」があった場合には「同国に支援を提供するため、即座に国連安全保障理事会に行動を求める」ことを約束。ウクライナは1996年までに全ての核兵器をロシアに返却。ウクライナが核を保有する選択は現実にはあり得なかった。

## **オレンジ革命2004年**

大統領選挙に関する不正をめぐる運動。親ロシアのヤヌコヴィッチが勝利したが、不正を追及され、やり直し選挙で親EUのユシチェンコが大統領に。

## **ロシアのグルジア侵攻2008年**

グルジア領内の南オセチア自治州、アブハジア自治共和国の分離独立をロシアが支援。ソ連時代北オセチアはロシア、南オセチアはグルジア。ソ連崩壊後、南オセチアはロシアと友好的、平和維持軍の名目でロシア軍が駐留。5月、グルジア軍が南オセチアの首都を攻撃、ロシア軍はグルジアを空爆。5日間の激しい爆撃後停戦。

## マイダン革命 2014年

ウクライナ政府はEUとの連合協定を結ぼうとした。ヤヌコーヴィチ大統領は初めは認めていたが、経済難の中で、ロシアからの支援を受けるために署名を拒否。反政府デモが勃発。ウクライナの治安部隊とデモ参加者の激しい衝突が起こった。70-100名が亡くなった。政権は憲法改正、大統領選の早期実施などの譲歩を行ったが、身の危険を感じたヤヌコーヴィチ大統領は東ウクライナに脱出。大統領選が行われ、暫定政権はEU協定の署名と国の司法制度・政治・財政・経済政策の改革に合意。ロシアは、クーデターと位置付けた。またウクライナ民族主義者やネオナチ、アメリカの関与も指摘されている。

**クリミア併合** 2014年3月クリミア住民投票を受けて独立・ロシア併合 投票の不正も指摘されている。ロシアにとっては、クリミアはもともとロシア領であり、セバストポリはロシア黒海艦隊の母港。ロシア国民はクリミア併合を熱狂的に支持。

**ドンバス戦争** 2014年3月から親ロシア反政府グループが、ドネツィク州とルハーンシク州で抗議行動を実施。激化してドネツク人民共和国DPRとルガンスク人民共和国LPRを自称する分離主義勢力とウクライナ政府側との武力衝突に発展。2014年9月、ウクライナ、ロシア、DPR、LPRは両州の自治と停戦を確立するミンスク議定書に署名。しかし双方で停戦違反が一般的になり、2015年2月、ウクライナ、DPR、LPR、ロシア、ドイツ、フランスは、徹夜で16時間に及ぶ協議の末、ミンスク2を締結。しかしその後も戦闘が続き、双方あわせて15000名が亡くなっている。双方の過激分子による住民虐殺も報じられている。

# 国際法を無視した侵略と非人道的な殺戮

武力によって民主的に選ばれた政府に圧力をかけ、あるいは転覆させ、力で自らの主張を押し通そうとすることは国際法と国連憲章を踏みにじる行為。

国連憲章第2条2項「国際紛争を平和的手段によって国際の平和及び安全並びに正義を危くしないように解決しなければならない」、3項「武力による威嚇又は武力の行使を、いかなる国の領土保全又は政治的独立に対するものも、…慎まなければならない」。

プーチンも国連憲章自体を否定することはできない。そこで国連憲章51条「国際連合加盟国に対して武力攻撃が発生した場合には、安全保障理事会が国際の平和及び安全の維持に必要な措置をとるまでの間、個別的又は集団的自衛の固有の権利を害するものではない」を使って侵攻を正当化。

そのために2月21日、ロシア安全保障会議で親ロシア派が実効支配しているウクライナ東部の「ドネツク人民共和国」と「ルガンスク人民共和国」の独立を承認し、即ロシアと「友好相互援助条約」を締結し、その要請を受けた集団的自衛権の発動であるとしたのである。だが急遽承認した二つの「国」は、ウクライナ政府も認めず国連加盟国でもなく、51条には該当しない。

またプーチンはロシア系住民への「ジェノサイド」があった主張する。武力紛争が続く中で住民への迫害があったことは事実としても、ミンスク合意により停戦監視を担う欧州安全保障協力機構OSCE（ロシアも含む欧州57カ国が参加）の場で話し合って解決すべきである。



# プーチンの大ロシア主義に基づく侵略

## プーチン「ロシア人とウクライナ人の歴史的な一体性について」2021.7

- 今日のウクライナは、完全にソ連時代の産物である。ウクライナは「歴史的なロシア」を損なう形で形成された。「歴史的なロシア」は、ソビエト政権の下で、実質的に篡奪された。ウクライナ人が独立した民族だという概念を強化する上で決定的な役割を果たしたのは、ソ連当局だった。ソ連の民族政策によって、**大ロシア人、小ロシア人、白ロシア人からなる三位一体のロシア民族に代わり、ロシア人、ウクライナ人、ベラルーシ人という3つの個別のスラヴ民族が、国家レベルで固定化された。**
- ウクライナとロシアは、数百年、単一の経済システムとして発展してきた。30年前の協力関係の深さはEU諸国が羨むほどのものだった。両国は自然かつ補完的な経済パートナーである。緊密な関係はお互いの競争力を強化し、両国の潜在能力を数倍にも発揮することを可能とする。
- ウクライナには、ロシアとの提携を支持する人々が数百万人もいるが、彼らは自分たちの立場を守る法的な機会を実質的に奪われている。彼らは脅迫され、地下に追いやられている。ロシアはウクライナとの対話に前向きで、複雑な問題を議論する用意がある。
- 私は**ウクライナの真の主権はロシアとのパートナーシップによってのみ可能である**と確信している。ともにあればこれからも何倍も強く成功するはずだ。結局我々是一个の民族なのだから。

## ピョートル大帝と自らを重ねるプーチン大統領（6月9日）

22年6月9日ピョートル大帝生誕350年記念展覧会での発言（CNNニュースより）

プーチン大統領「ピョートル大帝は21年間にわたって大北方戦争を展開した。ロシアから領土を奪ったスウェーデンとの戦争だった……彼は奪ったのではない、取り返したのだ。大帝が新都を築いた時、この領土をロシアの一部として承認する欧州諸国はひとつもなかった。誰もがスウェーデンの領土だとみなした。だが、この地でははるか昔からスラブ系民族とフィン・ウゴル語派の人々が共存しており、ロシアの支配下にあった。その西にあるナルバや、ピョートル大帝が最初に行った戦いも同じだ。なぜ大帝はその地に向かったのか。領土の奪還と強化、それが大帝のしたことだ。」

そしてウクライナ侵攻に言及。 **「我々には奪還と強化の責任がある」**

註 ピョートル大帝（1672-1725）海軍を創設、ロシア正教会を国家に従わせ、帝国のあらゆる権限を皇帝に一元化し「帝国ロシア」の礎を築いた。黒海の覇権を求めてオスマントルコのイスラム教徒を弾圧、国家収入の大半を軍備に当てた。重税に苦しむ農民からは「イエスの教えに反するアンチ・キリスト」として憎まれた。

註 2010年意識調査 ロシア人とウクライナ人が単一の民族だと認識、ロシア47%、ウクライナ48%

# プーチンの軍事戦術「残虐性の価値」

1 「第1次チェチェン戦争において、ロシア軍の侵攻からしばらく経った1995年4月に、ロシア軍により制圧されていたチェチェンの首都グロズヌイの近郊のサマーシキ村において、無抵抗の住民約300人がロシア軍により虐殺される事件が起きました。拷問などの残虐の限りを尽くした後に男女の別なく銃殺や、中には火炎放射器で生きたまま焼き殺された住民もいました。グロズヌイにおいてもむごたらしい虐待を受け殺された住民の集団埋葬が発見されました。第2次チェチェン戦争においても同様の虐殺が起きています。このようにチェチェン戦争の例を見ても、ロシア軍の非道な住民虐殺は、今回ウクライナでたまたま行われたのではないことは明らかです。」

チェチェン連絡会議第2声明「戦争犯罪を許さず、これ以上の虐殺を止めよう！」2022年6月8日より

2 ウクライナ北東部の都市ハルキウは2月末にロシア軍に侵攻されてから、クラスター爆弾や低精度のロケット弾による容赦ない無差別攻撃にさらされ、民間人数百人が犠牲になってきた。自宅や街頭で、広場や墓地で、また、支援物資を受け取る行列に並んでいて住民が犠牲になっている。アムネスティの現地調査で明らかになった。

アムネスティ6月14日 [https://www.amnesty.or.jp/news/2022/0614\\_9593.html](https://www.amnesty.or.jp/news/2022/0614_9593.html)



# プーチンに侵略の口実を与えた欧米の対応

ロシアによる侵略は国連憲章の精神を踏みにじる行為。だが、このことはこれまでもたびたび繰り返されてきた。

アメリカによるイラクへの軍事侵攻とフセイン政権の武力による打倒もまた、大量破壊兵器があるという虚偽の口実に基づいてイラクの主権を侵害し多くの人々を殺したこと。

アフガニスタン侵攻も、テロリストをかくまっているというだけの理由で政府を武力で倒し多くの罪もない人々を殺戮した。

イスラエルによるガザ地区への爆撃も戦争犯罪。また占領地への入植も明確な国際法違反。

2001年9.11を機に、ブッシュ大統領と共同してテロと戦うと語ったプーチンは、イラク戦争によってアメリカの嘘を感じたと語っている。

**ダブルスタンダードを許してはならない。**

ロシアの戦争犯罪は国際刑事裁判所で裁かれねばならない。しかしアメリカは今、イスラエルと共に国際刑事裁判所をつぶそうとしている。

「民主主義対専制主義」という構図自体が欺瞞的である。

# ミンスク合意2はなぜ守れなかったのか

この侵略の背景をしっかりと見ておかねばならない。それはロシアの侵略を容認したり弁護するためではない。このプーチンの暴挙を阻止することはできなかったのかを考え、今後の世界を考えるためである。

第一の背景がドンバス戦争である。ウクライナはロシア語を使いギリシャ正教を信じロシアと親和的な東部と、ウクライナ語を使いカソリックを信じかつてハプスブルグ帝国の統治下にあって西洋と親和的な西部からなる複雑な国家である。ソ連が崩壊し91年に独立した後も、親ロシア政権と親欧米政権が交代するという微妙な政治が続いた。2005年の「オレンジ革命」で親西欧政権になったが、2010年選挙では親口派ヤヌーコビッチ政権へ変わった。しかし2014年2月のマイダン革命によりヤヌーコビッチがロシアに亡命、それを機にプーチンはロシア人が多数を占めるクリミアを併合。

それに抗議したウクライナ政府は**東部でウクライナ語の使用を進める政策を進め、ロシア語を公用語とするドネツクとルハンスク州で市民が反発**、そこにロシア軍も介入し武力紛争が始まった。その中で2015年2月に独仏が仲介して「ミンスク合意2」が結ばれた。

参考資料 元外務省の東郷和彦氏の「ウクライナ問題が抱える困難の本質と日本の役割」

(朝日新聞WebRonza2月25日) 及び東京財団政策研究所鶴岡路人研究員の「新たなミンスク停戦合意に見るウクライナ危機の構図」(2015年)

鶴岡論文によれば、武力紛争が激化する中で2015年1月**オバマ政権はウクライナへの武器供与を検討**し始めた。ロシアからの人員や兵器の流入が続き親ロ派の攻勢が強まったからである。しかし対戦車兵器を供与するためにはウクライナ軍に対する軍事指導も必要で、米露の代理戦争になりかねない。

そこでメルケル独首相とオランド仏大統領による停戦調停が本格化した。メルケル首相は「**この紛争は軍事的に勝利することはできない。これは現実だ。国際社会は（武器供与ではなく）他の何かを考えなければならない**」と述べている。

こうして結ばれたミンスク合意では、違法な勢力の武装解除、親ロシア派勢力が掌握した支配地域とロシアとの国境管理をウクライナに戻す、支配地域に事実上の自治権にあたる「特別な地位」を与えることが定められたが、その後「特別な地位」がロシアによる実効支配につながるとウクライナは修正を求め、ロシアが拒否する中で実質化されなかった。

2018年11月ドネツクとルハンスクで総選挙が実施され親ロシア派が選出されたが、ウクライナや欧米はこの結果を認めず、2019年5月に選出されたゼレンスキー大統領は、「**ロシアとの融合派はテロリストなので会わない**」と言明、さらに2021年10月には同政権が東部地域に「自爆型ドローン」で攻撃したと報じられている。

この経緯を考えれば、東部のロシア系地域に「自治」を付与し、**多様性を認めつつ国民の融和を図る智慧（例えば東部と西部の連邦制など）**が政治に求められていた。



# NATOの拡大問題

プーチンはNATO東方非拡大の口約束を欧米が破ったと主張しているが、そういう約束はなかったという議論もある。(例えば袴田茂樹青山学院大学名誉教授が日本国際フォーラムHPに掲載している論文「NATO不拡大の約束はなかったープーチンの神話について」など)

一方前述した東郷氏は「1990年2月のドイツ統一交渉において、ベーカー米 국무長官、コール独首相、ゲンシャー独外相などがゴルバチョフに対し、ドイツの統一を是認するなら、NATOを東方に拡大させない旨の口頭の“約束”をしたことは、現在おおよそその定説となっている」と記している。

私自身は約束の有無ではなく、そもそも**対ソ連の軍事同盟であったNATOがソ連崩壊、ワルシャワ条約機構解体後も残り続けたこと自体が問題**であり、ロシアを含む新たな安全保障の枠組みを創るべきだったと思う。

東郷氏の前記論考「クリントン政権で対ロシア政策を担当したタルボットとロシアの外務大臣プリマコフとの間で真剣な交渉が続けられ、1997年5月に「NATOロシアの創設協定」

(Founding Act) が締結され、そこでNATOとロシアとの間で**「平和のためのパートナーシップ」(PfP)**という方向性が約束された。これは、旧東欧諸国がNATOに加盟する権利を否定はしないが、その運用においては、ロシアとNATOとの関係が悪化しないように十分の配慮をしていくとい考え方である。ヨーロッパの安全保障からロシアを排除しようという考えとは正反対のものと言ってよいと思う。」

朝日新聞の副島英樹編集委員は3月5日の記事「91歳ゴルバチョフ氏『早急な平和交渉を』ウクライナ危機への視座」の中で次のように記している。(要約)

“ゴルバチョフは対立ではなく協調を模索し、人類共通の利益を優先するという「新思考外交」を唱え、核軍縮条約、冷戦終結につながっていく。これは米ソをはじめとする東西諸国の共同作業で、ゴルバチョフは「**ヨーロッパ共通の家**」構想も唱えた。”

ゴルバチョフの自叙伝から。

「我々は、ワルシャワ条約機構を解散した。当時ロンドンでNATO理事会の会合が開かれ、軍事同盟ではなく、政治が軸となる同盟が必要だという結論に至った。これは早々と忘れられた。NATOがこの問題に立ち返るのを私は望んでいる。」

「ウクライナ国民のためになるのは、**民主的なウクライナであり、ブロックに属さないウクライナ**であると私は確信している。そうした地位は国際的な保障とともに憲法で裏付けられなければならない。私が想定しているのは、1955年に署名されたオーストリア国家条約のようなタイプのものだ。」

ゴルバチョフが指摘するようにオーストリアはこの条約によって主権を回復し、その後永世中立を宣言。またロシアの圧力を長年受け続けてきたフィンランドは、ロシアに屈せず、しかしNATOにも入らないという選択をした。それはフィンランドの人々の叡智だった。しかし転換

# 双方の死者が増え続ける長期消耗戦をどう考えるのか

2022年3月29日トルコでの停戦協議（朝日新聞記事より）

ロシア側はウクライナ側から**中立、非同盟化や非核保有国としての地位を維持**するとの意思表示や、**大量破壊兵器の生産・配備を拒否**すること、領土内に**外国軍を駐留させない**考えを記した書面を受け取ったという。

ウクライナ代表団のポドリャク顧問は2014年にロシアが併合した南部クリミア半島について記者団に「**15年の期間をかけて両国間で交渉し、その地位を確定する**よう提案した」と述べた。交渉が続く間は両国が同半島問題解決のために軍事力を行使しないことも提案したという。

メジンスキー氏は「立場は異なる」とする一方、ウクライナがクリミア奪還のために軍事力を行使しないと明言したことを評価。

トルコのエルドアン大統領は事前に双方の代表団と会談し、「長引く戦いは、誰の利益にもならない」「悲劇を止められるのかは双方にかかっている」と述べ、停戦への期待を示した。

しかしその後ブチャの惨状が明らかになり、停戦交渉は中断された。

そしてゼレンスキー大統領は欧米に武器供与を要請、米国を中心として大量の武器を送り続けている。2022年3月の停戦が実現していれば、これほど多くの人々が犠牲になることはなかった。



# 市民も武器を持って戦えというべきではなかった

ゼレンスキー大統領は市民に武器を配り抵抗することを呼びかけ、ニュースでも義勇兵登録の様子や女性たちが火炎瓶を造る様子が報じられている。家族を守るために抵抗しようという市民の意志は尊いが、市民を市街戦に参加させることが政治家として正しい判断だろうか。

《伊賀崎賢治氏（長周新聞2022年3月17日）》

第二次大戦中にナチスドイツと戦った「パルチザン」非正規戦闘員だ。大戦後、その反省からジュネーブ諸条約をつくり、戦闘員と非戦闘員の区別を厳密に定義した。非戦闘員は保護しなければならない。だが非戦闘員（民間人）と非正規戦闘員を戦場でどう区別するのか。米国がテロとの戦いを始めてから加速的に難しくなっている。民間人が武装すれば戦闘員と見なせるが、事後の検死が困難な戦況を利用し、武装していなくても民間人を攻撃し、戦争犯罪の誹りを回避するという運用の実績を積んでいった。その一方で、民間軍事会社という非正規戦闘員を戦場に送る業界が拡大していった。ロシアもそうだ。

**国家が扇動して「市民よ銃をとれ」というのは、現代ではやってはいけないことだ。**敵から見れば「国家が戦闘員といっているのだから誰でも容赦なく撃てる」となる。プーチンも狂っているかもしれないが、ゼレンスキーはもっと狂っている。それをヒーローといっている。

なぜ大戦で一般市民があれほど犠牲になった日本国民がそれを応援するのか？「市民は死ぬな」という応援ならいいが、「市民よ、銃を取れ」という国家をなぜ応援するのか？

# 戦争中での人間性の喪失や参加型ファシズムの危険性

## NHK22年5月2日「ウクライナ 家族の戦場」より

否応なく戦争に巻き込まれていくウクライナの人々が自らを記録した映像。

日に日に精神的に追い詰められていく女性。「戦争がいかに人間性を破壊していくか」「怖いのは暴力になれること。もう怒りすら感じられない。今なら人を殺すこともできる。」  
「ウクライナ兵のことを心配しています。**人間性を失うのは簡単だからです。一度失ったら後戻りできません。**」

## 《戦争映像に「感動」する私たち 単純な善悪、止まる思考》大塚英志 朝日デジタル6月8日

戦時下の報道というのはどちらの側がやっていることもプロパガンダです。ゼレンスキー大統領もそうだし、プーチン大統領もそうです。…翼賛体制を目指した近衛文麿は、『**内面より参与せしむる**』という言葉を使っています。プロパガンダを内面化し、現状を肯定し、そして戦時体制にコミットしていく。つまり重要なのは情報操作でなく『**感情**』の動員です。そしてそのために設計されたのが『**下意上達**』とも『**協働**』とも言われた、大衆の側からの参加型によるファシズムです。

# トランプとプーチンによる取引が行われようとしている今

- 改めて、殺しあうことは何の解決も生み出さない
- 権力者の意向にとらわれることなく、それぞれの現場で、小さき人々を支えるために何ができるのか。
- 日本に避難しているウクライナの方々、子どもたち
- ウクライナで活動するNGOの支援
- ウクライナだけではない。パレスチナ、ミャンマー、様々な人々のことを考え、できることをしていくこと。
- そして日本社会がどうすべきか、日本はどうすべきか、国際法遵守、国連尊重を言うのであれば、ウクライナでもパレスチナでも同じ原則に立つよう主権者として政府に要請すること。トランプに追随することを許さないこと。



ウクライナの大地を 劣化ウラン弾で汚染させないよう、  
G7及び関係各国に求めます！ <https://chng.it/9w4Dg5drhm>



# 劣化ウラン概況報告書

## 国連環境計画（UNEP）2003年9月より

- 劣化ウラン（DU）はその貫通能力のために軍で使用されている高密度金属であり、装甲車の防護材としても利用されている。それは**有毒かつ放射性重金属**である。
- DU は天然に見出されるウランと同様に、化学的に有毒な重金属であり、**腎臓はウラン中毒に最も敏感な器官**である。ウランの化学的毒性は肉体汚染の数時間または数日後に強い影響（中毒）に至らしめる。
- 放射線性の影響は数年を経た後に起こりうる。放射線毒性は主にアルファ粒子の放射による DU の放射性崩壊に由来している。これらの粒子には皮膚を貫通する能力はない。しかしながら、もしかすると**経口摂取または吸引されたDU 塵が肺や消化管（上皮）を放射能被曝させる**かもしれない、それによって放射線被曝の原因となるかもしれない。